

### 和仏法律学校講義録

栗津, 清亮 / 赤司, 鷹一郎 / 加藤, 正治 / 下村, 宏 / 金井, 延 / 有賀, 長文

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-11

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1899-07-10



Handwritten signature or initials in the top right corner.

二五頁第四章第二節

信記



# 經濟學講義筆記

每月貳回

第拾壹號

目次

財	政	學	(自一六頁)	法學士下村宏		
經	濟	學	(自六七頁)	法學博士金井延		
財	政	學	(自一八五頁)	法學士有賀長文		
商	法	保	險	(自三五頁)	法學士粟津清亮	
海	商	法	(自九三頁)	法學士加藤正治		
商	法	商	行	爲	(自一二頁)	法學士赤司鷹一郎



和佛濟講  
 義講  
 筆畧  
 商

Handwritten signature or mark in the top right corner.

每月貳回

第拾壹號

目次

財	政	學	(自一六頁)	法學士下村宏	
經	濟	學	(自七四頁)	法學博士金井延	
財	政	學	(自一六五頁)	法學士有賀長文	
商	法	保	險	(自三五頁)	法學士粟津清亮
海	商	法	(自九三頁)	法學士加藤正治	
商法商行為(自一九頁)					
法學士赤司鷹一郎					

090  
1899  
2-1-11

財政學

法學士 下村 宏 講述  
校 友 守谷富之助 編輯

予カ財政學講述ノ順序ハ一般ノ例ニ倣ヒ第一編ニ總論トシテ財政及ヒ  
財政學ノ概念ヲ述ヘ第二編ニ經費論トシテ經費ノ觀念及ヒ分類ヲ叙シ  
第三編ニ收入論トシテ收入ノ觀念及ヒ分類ヲ述ヘ第四編ニ收支適合論  
トシテ國債ノ觀念及ヒ分類ヲ叙シ歲計論ヲ以テ其全部ヲ終了セントス  
曩ニ有賀君財政學ノ總論ニ亞クニ收入論ノ主體タル租稅論ヲ以テシ殆  
ト其要ヲ盡セリ偶君海外ニ渡航セラレテ予其後ヲ繼クニ際シ學年ノ期  
間剩ス所業ニ少キニ失スルヲ以テ再ヒ稿ヲ改メテ總論ヨリ逐次叙述セ

ンコトハ時日ノ許サ、ル處ナリ而シテ財政學ニ在リテ最モ重要ニシテ且趣味多キハ租税ト國債ノ二者ニ存ス故ニ予カ茲ニ收支適合論トシテ國債ヲ述フルハ當ニ予カ講述ノ順序ニ從フノミニ非サルナリ若シ國債論ヲ終了シテ猶餘日ノ存スルアラハ收入論ニ遡リテ租税以外ノ收入即チ私人經濟的收入タル政府ノ原始產業商工業交通業及ヒ公共經濟的收入タル手数料ニ論及スル處アラントス

#### 第四編 收支適合論

##### 第一章 總論

財政ノ要ハ出ルヲ計リテ入ルヲ制スルニ在リ隨テ財政ノ整理ニハ收入ト支出カ相平均シテ其間ニ過不及ナキコトヲ要ス故ニ收支ノ適合ヲ期シ財政ノ權衡ヲ保持センニハ當局者ハ一定ノ時期ヲ畫シテ會計期ト爲シ其期間内ノ財政計畫ヲ立テ收入支出ノ種類分量ヲ彙類區分シテ二者ノ平均ヲ保持スルニ必要ナル基礎ヲ確定スルコトヲ要ス此財政計畫ハ通常豫算ノ編成トシテ現ハル、モ

ノニシテ通常會計期間ヲ一ケ年トシテ會計年度ト稱シ收入支出モ亦歲出歲入ト稱セラル

然レトモ複雑ナル國家ノ行政ハ固ヨリ單純ナル理想ヲ以テ之ヲ律ス可ラス隨テ豫算ハ所期スルカ如ク收支ノ權衡ヲ正確ニ保持シ難キ丈ケ整理ノ條件トシテ其必要益緊切ナルモノニシテ豫算ノ編成ハ財務行政ニ於ケル積極的方法トシテ重要ナルモノタリ

豫算ノ編成ニ依リテ收入支出ノ額ヲ豫定スルト共ニ事實ニ於テハ何レノ國ニ通スルモ必ラスヤ或ハ歲計ニ剩餘ヲ生シ又ハ不足ヲ告グルコトヲ免レヌ此速算ヲ調和シテ救正スヘキ消極的方法ヲ研究スルハ收支適合論ノ目的ニシテ或ハ財政權衡論ト曰ヒ或ハ其救正方法ノ基礎ヨリ觀察シテ國家信用論ト曰ヒ或ハ其重ナル方便ノ名稱ヲ借リテ國債論ト稱ス然レトモ後ノ二者ハ收支適合ノ範圍ニ於テ固ヨリ其一部ニ屬スヘキコト言フ埃タサルナリ

歲計ニ剩餘ヲ生セル場合ハ當ニ事實トシテ稀ニ生スルモノタルノミナラス此カ救正ノ方法モ又甚タ容易ナルモノナリトス若シ其剩餘ニシテ比較的恒久ノ

性質ヲ有スルトキハ或ハ租税中比較的惡税ト認ムヘキモノヲ廢シ又ハ此カ税率ヲ低減シ以テ民力ヲ休養スヘシ收入ニ於テ剩餘ヲ生スルハ等シク財政不整理ノ一徵候ニシテ又私人經濟ト大ニ趣ヲ異ニスル所ナレハナリ若シ其剩餘ニシテ一時ノ性質ニ屬スヘキモノナランカ其額ニ應シテ或ハ公債ノ償還民有財産ノ買上官業ノ擴張設備等此カ費途ニ向テハ又其選擇ニ苦シマサルハ自ラ明ナル所ナリトス

歲計ニ不足ヲ生スル場合ハ事實トシテ最モ起リ易ク且此カ救正ノ手段ニ於テモ又困難ナル問題ニシテ財務行政ニ於テ最モ重要ナル地步ヲ占ムルモノナリ其不足額巨大ナルトキハ其措置ノ如何ハ財政ノ紊亂ヲ來シテ積年ノ累ヲ釀成シ甚シキハ一國ノ生存ヲ危クスルニ至リ古來其例乏シト爲サス今不足ヲ生セル場合ヲ其性質ヨリ分類スレハ次ノ二者ニ分ツコトヲ得ヘシ

#### 第一、金庫上之不足

#### 第二、真正之不足

第一、金庫上之不足トハ單ニ金庫ノ上ニ於テ或ル時期ヲ限り不足ヲ來スモノ

ニシテ一會計年度内ニ於テ收入ノ時期カ豫定ノ時期ヨリ遅ル、カ又ハ支出ノ時期カ豫定ノ時期ヨリ早キ場合ニ生シ會計年度ノ末ニ於テハ結局違算ナキモ一時收支ノ時期ノ異ナルヨリ生スル不足ナリ此場合ハ所謂表面上ノ不足又ハ假面上ノ不足ト稱セラル、モノニシテ其性質金額期間等此ヲ真正ノ不足ニ比スレハ此カ救正ノ方法ニ於テ輕易ナルコト又論ナキナリ我國ニ於テハ時期ヲ限ラスシテ月々日々收入アル動産税又ハ間接税ヲ以テ歳入ノ大部分ヲ占ムル英國等ト異ナリ政府收入ノ過半ハ地租ノ如キ不動産税ニ依ルヲ以テ收入ノ時期一定シ金庫上ノ不足ヲ生スル場合比較的多シ而シテ此カ救正策ハ納期ヲ改正シテ此カ不足ヲ生セザラシメンコト難キニ屬スルヲ以テ納期ハ被稅者ト課稅物件ノ關係性質ヨリ一定スルノミナラス一方ニ納期ヲ改正スルトモ支出ノ時期又豫定スヘカラサルモノ多ケレハナリ政府ハ財政上ノ都合ニ由リ其信用ヲ利用シテ一時資本ヲ借入ル、ヲ常トシ其多クハ中央銀行ノ力ヲ借ルモノニシテ短期借入紙幣及ハ大藏省證券ノ發行等是ナリ其大藏省カ責ヲ負フテ國家ノ信用ヲ利用シ未タ政府全體ニ關係ヲ有セザル點ニ屬テ學者或ハ財政信用又ハ

財政上ノ公債ト曰ヒ又財政官衙カ政府ノ費用ノ融通ヲ營ムモノト見テ營業的信用又ハ營業的公債ト稱セラル其細論ハ國債分類ノ章ニ於テ述フル處アル可

第二、真正之不足トハ一會計年度ニ於テ收入ノ支出ヲ辨スルニ足ラサル場合ナリ再分シテ二ト爲ス

甲、行政上之不足

乙、財政上之不足

甲、行政上之不足トハ收入額豫期ニ合スルモ行政事務上ノ支出多キニ過キテ收入ニ超過セル場合ヲ謂ヒ

乙、財政上之不足トハ支出額豫期ニ合スルモ收入額豫期スル額ヨリ少キニ過キテ支出ヲ辨スルニ足ラサル場合ヲ謂フ

乃チ二者真正ノ不足タルハ一ニシテ只其標準ノ異ナルニ從ヒテ之ヲ分類スルモノニシテ事實ニ於テハ二者相隨伴シテ生スルコト多キハ言フ埃タサル處ナリ而シテ前者ハ立法監督ノ嚴密ナルニ依リ幾分力之ヲ節制スルコトヲ得ヘク

六

後者ハ結局如何ニセハ一時又ハ永久ノ國家ノ收入ヲ増加スヘキヤノ問題ニ販スルモノニシテ其ニ國債分類ノ章ニ於テ述フル處アル可シ

學者又別ニ經濟上之不足ナルモノヲ舉タル者アリ所謂經濟上ノ不足トハ政府カ經營スル所ノ有形無形ノ生産ハ國民カ支出スル所ノ經濟上ノ價值ニ比シテ及ハサルヲ云ヒ結局政府カ國民ニ賦課セル額ニ比シテ其效果ノ小ナルヲ指スモノナリ故ニ一方ニハ國家ハ苛重ノ負擔ヲ課シテ一方ニハ其收入ヲ不生産的ニ支出スルトキハ遂ニ民力ノ疲弊ヲ來シ真正ノ不足又ハ之ニ伴フニ至ル可シト云フニ在リ私見ヲ以テスレハ經濟上ノ不足トハ政府ノ經費ノ生産的ナルヤ不生産的ナルヤト云フコトヲ半面ヨリ見タル結果ニシテ只一ハ結果ヨリ見一ハ原因ヨリ見タルモノナリ故ニ理論上不生産的經費ハ假令收入ノ支出ニ超過スルモ結局經濟上ノ不足ヲ生セリト謂フコトヲ妨ケサルト共ニ生産的經費ハ假令支出ノ收入ニ超過スルアルモ結局經濟上ノ不足ヲ生セリト謂フコトヲ得サルナリ要之此用語ハ學科ノ上ヨリ見ルモ必要少キト共ニ事實ニ於テハ此力有無程度ノ如何ハ之ヲ

付度スルニ由ナキモノナルヲ以テ此ニ之ヲ認メス

八

真正之不足ヲ填補ス可キ救正策モ亦其不足ノ行政上ノ不足タルト財政上ノ不足タルトヲ問ハス永久ニ持續ス可キ性質ヲ有スルト單ニ一時期リニ生ゼシトニ由リ自ラ其方法ヲ異ニセスンハ若シ其不足ニシテ持續スヘキ不足ノ經常不足ナルトキハ此ヲ填補スルニ臨時ノ收入ヲ以テシ苟且偷安一時ヲ塗抹スルカ如キハ財政學ノ原則ニ違反スルモノニシテ益財政ノ紊亂ヲ助長シ遂ニ收拾スルコト能ハサルニ至ルモノナリ故ニ此カ救正策トシテハ消極的ニハ成ル可ク經費ノ節約ヲ行ヒテ民力ノ充實ヲ計リ積極的ニハ其避ク可ラサル經費ヲ支辨スル爲メ私人經濟的收入トシテハ官有財産又ハ官業ノ改良擴張ヲ計リ公共經濟的收入トシテハ手数料租稅ノ改正ヲ期スル等又經常ノ收入ノ増加ニ依ラスンハアラス面シテ理論ニ於テモ亦實際ニ於テモ主トシテ取ル可キ方法ハ新稅ヲ起スカ又ハ在來ノ稅率ヲ高ムルニ存シ隨テ此等ハ租稅政策ノ範圍ニ屬スルヲ常ト爲スモノナリ

一時期リノ支出ニ屬ス可キモノニシテ然モ何レノ會計年度ニ通スルモ規

則正シク或種類ノ行政事務ニ附帶シテ其年々要スヘキ經費モ大體ニ於テ之ヲ豫算ニ見積ルコトヲ得其額ノ又大ナラサルモノアリ例セハ公用家屋道路等公有物ノ設備修繕ニ要スル經費ノ如シ此等ハ個々獨立ニ觀レハ又一時期リノ經費ト見ルコトヲ得ヘキモ財政上此ヲ經常不足ト見ルハ正當ト爲スモノナリ

真正之不足ニシテ非常ノ需要ヨリ生スルモノ乃チ臨時ノ不足ハ交通機關ノ設備軍備ノ擴張編制其他司法行政立法等ノ大改革等ニ何レモ其額巨大ニシテ殊ニ天變地異交戰擾亂等全ク豫期ス可カラズシテ之ニ要スヘキ經費ノ支辨ニ時日ノ餘裕ヲ許サ、ルモノアリ此等ノ場合ニ在リテハ分捕品獻納金又ハ剩餘金ノ繰出ニ依ルカ如キハ全ク偶然姑息ノ策ニシテ現時此カ救正ノ財源トシテ認ム可キモノハ要スルニ次ノ四種アルニ過キス

第一、官有財産之拂下

第二、非常準備法

第三、租稅之増額又ハ新設

財政學

九



第一、官有財産ノ拂下

官有財産ノ重ナルモノハ田地ト森林ナリ而シテ田地ハ其經營ノ方法カ直接管理法タルト委任管理法タルト將タ小作法タルトヲ問ハス現時一般ニ政府ノ經營ヲ以テ不得策ト爲スヲ通説ト爲シ又一方ニハ森林ハ治水其他ノ理由ヨリ彼ノ保安林ノ如キ政府ノ手ニ買収シテ猶ホ此カ經營ノ術ニ當ル可キモノアリ隨テ現時一般ニ非常ノ支出ヲ辨フルニ足ル可キ財産少キヲ常ト爲シ縱令此等ノ財産剩アリトスルモ公債等ト其債ヲ異ニシ此カ移轉融通ニ不便ナルヲ以テ巨額ノ賈ヲ投シテ此ヲ購入スル者甚タ稀ニシテ其價格モ亦必ス相當代價ヨリ下ルコトヲ常トシ加ルニ事實急速ノ需要ニ應スルニ難キヲ以テ非常費支辨ノ方法トシテ現時復此方法ヲ取ル者ナキニ至レリ

第二、非常準備法

非常準備法トハ居常金錢其他ノ貸財ヲ積立テ、一朝非常ノ需要アルニ際シ之ニ應スルノ準備法ニシテ信用經濟ノ行ハレサリシ時代國家觀念ノ未タ發達セナリシ時代換言スレハ租税ノ徵收國債ノ募集ノ如キ仍ホ行ハレサリシ時代ニ

在リテハ一朝有事ノ際非常準備法ノ設備ナキニ於テハ他ニ之ニ應スヘキ政策存セサリシヲ以テ其體様ニ於テハ時ト處ニ由リ多少其趣ヲ異ニスルアルモ何レモ皆斯法ノ精神ヲ取ラサルモノ無カリシモノ、如シ

按スルニ希臘時代ニ在リテハ亞典政府ハ波斯戰爭(紀元前四百九十年)ト「ペロポネサス戰爭(紀元前四百四十六年)トノ間ニ一萬、タレント」ト「タレント」ハ凡ソ一千一圓餘ニ當ルヲ貯蓄シ波斯ニ於テモ「シラス」大王以後鉅萬ノ軍用金ヲ蓄積シ歷山大王波斯征討ノ際之ヲ略取シ爾后「マセドニア」帝國ノ準備金ハ又羅馬ノ將軍「ポロス」エミリオスノ畧取スル所ト爲レリ又羅馬時代ニ在リテハ奴隸免役稅トシテ其身受金ニ五分稅ヲ課シ其收入ハ屬邦ヨリ納ムル貢金、敵國ノ分捕品等ト併セテ「サトルン」ノ殿堂ニ蓄積シ其後「オーストラス」(「タイベリアス」)「ウニスベレアン」ノ諸帝又非常準備金ヲ貯蓄シタリ佛國ニ在リテモ「フランク」時代「ミツタル」アルナルヲ通シ歷代ノ諸王非常準備ヲ貯蓄シ普魯西ニ在リテハ「フリードリッヒ」ウヰルヘルム(八百七十萬「ターレル」)ノ準備ヲ有シ「フリードリッヒ」三世ノ朝ニハ舉ケテ此ヲ游盡セシ

モ爾後此ヨリ巨額ノ準備ヲ見ルニ至レリ歴史家ノ説ニ據レハ六千乃至七千萬ターレルニ上リタリト云ヘリ東洋ニ在リテハ支那ハ歴代興亡盛衰常ナカリシト共ニ常ニ非常準備法ノ存セシハ史乘ノ證スル所ナリ我邦ニ在リテモ古代實物經濟時代ニ在リテハ政府ハ各種ノ官有財産ヲ以テ非常準備ニ充テ又大寶令ノ頒ニハ別ニ義倉ノ制アリ一位以下百姓ニ至ルマテ上々戸ハ二石上ノ中戸ハ一石六斗等以下其間ヲ九等ニ別チ粟又ハ其他ノ穀類ヲ田租ト共ニ納メシメ貯藏シテ凶歉ノ患ニ備ヘシメタリ其費途ノ一定シテ恤救行政ニ關聯スルモノナレトモ又非常準備法ノ精神ヲ取リシモノナリ降リテ豊臣秀吉カ巨額ノ金塊ヲ大坂城内ニ貯藏セシカ如キ徳川家康カ金法馬ト稱スル分銅形ノ金塊ヲ造リ一代毎ニ一個宛後世ニ遺サシムルコトヲ遺訓セシカ如キ又非常準備法ヲ執レルモノト謂フヘキナリ然レトモ方今信用經濟ノ發達セル經濟界ニ在リテハ資本ノ融通又古代ノ比ニ非サルヲ以テ始ト非常準備法ヲ取ルノ必要ナク各國又此制ヲ採用スル處ナレ唯歐洲ニ在リテハ普魯西及ヒ丁抹ニ於テ猶ホ斯法ノ存スル在リ即チ普魯西ニ

在リテハ「フリードリップヒツ费尔ヘルム」以後歷代ノ君主巨額ノ準備ヲ貯蓄シ一千八百七十年ノ役佛國ト戰フテ巨額ノ償金ヲ得ルヤ其五十億フランノ内一億五千萬フランヲ割キテ此準備金ニ繰込ミ一千八百七十六年ノ統計ニ據レハ其總額一億一千一百萬弗ニ達シ而モ其内譯一千六百萬弗ハ外國ノ有價證券ヲ以テシ六千五百萬弗ハ自國ノ鐵道公債ヲ以テシ正金トシテ存スルハ三千萬弗ニ過キスト云フ

今春予ノ記憶スル所ニ據レハ我政府モ日清戰爭ノ收容償金ノ殘額中費途ノ確定セサルモノ七千五百萬圓ヲ非常準備金トシ平時ハ以テ軍艦補充教育恤救等國費ノ一部ニ供シ一朝事變アレハ以テ戰時準備金ニ充テシモノ、如シ隨テ本論ハ既ニ學說實際共ニ消極說ニ一致セルモ茲ニ少シク論述スル所アル可シ非常準備法ニ對スル消極說ノ大要ヲ述フレハ第一政治上ヨリ觀察スレハ常ニ施政者ノ專斷放恣ヲ誘導シ濫用浪費ノ弊ニ陥リ易ク現ニ準備金ノ近時著シク其額ヲ減セルニ拘ハラヌ一方ニ其費途ノ漠トシテ曖昧模糊ノ中ニ在ルハ普魯西ニ於テ見ル所ナリ隨テ少クトモ非常ノ支出ヲ填補スルニ足ル可キ準備金ノ

存在ハ一方ニハ不急ノ事業ヲ起シ又ハ無謀ノ戰端ヲ開ク等不生產業ニ費消スルノ機會ヲ與フルハ又論ナキ所ナリトス第二財政上ヨリ觀察スレハ非常準備金ノ根本ハ非常ノ支出アルニ際シ直チニ此ヲ填補スルニ在ルヲ以テ正貨トシテ存スルニ非スンハ特ニ新法ヲ設ケシ精神ヲ達スルコト克ハス故ニ收益ヲ計リテ此ヲ市場ニ投下スレハ一朝有事ノ際之ヲ政府ノ手ニ回收スルニ由ナク又有價證券トシテ存スレハ必要ノ場合ニハ又此ヲ市場ニ買却セスンハアラス隨テ其價格ノ低落スルハ固ヨリ其手數煩勞時間ヲ浪費シテ一方ニハ經濟市場ヲ攪亂シ結局新法設定ノ目的ヲ達スル克ハサルモノトス而シテ若シ正貨トシテ倉庫ノ裡ニ貯藏セラレンカ徒ラニ活物ヲ死物ト爲ノ愚ヲ學ヒテ一方ニハ巨額ノ流動資本ヲ吸收スル結果トシテ金融ヲ逼迫シ產業ノ發達ヲ阻碍スル場合モ亦少ナカラサル可シ况ヤ一時ノ臨時收入ヲ以テセスシテ租稅ノ増徴等ニ依リ積立ツル場合ニ於テヲヤ

日耳曼ハ五年間ニ七億六千フランヲ不生產業ニ浪費セリ一方ニ巨額ノ有價證券ノ買收ハ其後ノ賣出ニ因リテ其下落ヲ醸シ物價ノ騰貴ヲ來シ又商

業ノ紊亂ヲ來セリ若シ日耳曼政府カ正金ノ受取額ヲ戰爭費用ヲ償フヲ限度トシ其他ハ佛國ノ公債證書ヲ以テスレハ日耳曼ハ爲メニ市場ヲ擾亂スルコトナクシテ永ク敵國ノ膏血ヲ絞リ佛國モ亦爲メニ財政整理ノ反動力ヲ挫折セシメシナラン千八百七十年ノ役ハ兵力ニ於テハ普ハ佛ニ勝チ財政ニ於テハ佛普ニ勝チタリ云々(ボローニユ氏財政學卷一第二章非常準備金ノ一節)

第三經濟上ヨリ觀察スレハ結局產業ノ進歩國力ノ増進ニ必要ナル資本ノ一部ヲ政府ノ手ニ吸收スルヨリ經濟自然ノ發達ヲ阻碍シ物價ノ騰貴金融ノ逼迫ヲ來スノ通弊ニ陥ラスンハアラス平時人民ヨリ徵集シテ準備金ヲ積立ルニ於テハ殊ニ然リト爲ス

要之非常準備金ノ方法ハ財政上經濟上非難多キノミナラス政治上行政上事實濫費ニ終ルコト多シ換言スレハ非常準備法ハ其目的達セラル、モ弊害之ニ過キ又其目的達セラル、コト少ナシ況ヤ現時特ニ此非難多キ制度ヲ取ランヨリモ他ニ國債ノ募集等弊害少クシテ奏効ノ確實ナルモノアルニ於テラヤ勿論今

後如何ニ信用經濟發達セントモ臨時急速ノ需要ニ應スル爲メ或ル程度迄ハ金銀又ハ米穀等ヲ貯蓄スルコト全ク無用ナラサルノミナラス又多少ノ効益ヲ生スルモノナリ故ニ我國ニ於テモ憲法第六十九條ハ

避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

ノ一條ヲ設ケテ明治二十二年法律第四號會計法第七條及ヒ第八條同年勅令第六十六號會計規則第二章第五款豫備金ノ支出ニ關スル九ヶ條ヲ以テ其手續ヲ規定シ一方ニハ凶荒不慮ノ災害ニ對スル非常準備策トシテハ明治十三年布告第三十一號ハ備荒儲蓄法ヲ制定シテ中央及ヒ府縣ノ儲蓄金制ヲ定メ猶ホ上述

ノ手段ヲ以テ處理スルコトヲ得サル緊急ノ場合ハ憲法ハ第七十條第一項

公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

トノ明文ニ依リ以テ遺憾ナカラシム隨テ今日ニ於テハ非常準備金ニ依ル必

個人ノ所有權ヲ認メサリシハ全ク不當ナルカ現今ノ社會ニ於テ勢力ノ結果ヲ舉ケテ勢力者ノ所有ニ專屬セシメサルハ果シテ不當ナルカ公益ノ爲メ一人ノ所有權ヲ制限スルハ不當ナルカ此等ノ疑問ニ據テ之ヲ觀レハ財貨或ハ勢力ニ因リテ生スト謂フヲ得ヘシトスルモ所有權モ亦勢力ニ因リテ生スト謂フヲ得サルナリ

第三說 ハ「ホッブス」モ「モンテスキュー」モ「ベンザム」モ「ワグネル」等諸氏ノ主張スル法理說ニシテ前二者ノ如ク先天的ノ自由ニ基カス此說ニ據レハ一個人ノ所有權ハ單ニ國家カ便宜上法令ヲ以テ認ムルニ因リテ生スルモノタルニ過キスト曰

註 法理說ハ「ホッブス」其他ノ學者カ唱フル所ニシテ前二說ノ如ク先天的ノ理由ヲ根據トスルモノニ非ス前二說ハ人類ノ此世ニ存在スル以上ハ初ヨリ所有權ヲ認メサルヘカラサルカ如ク論ス故ニ太古ノ事實ニ反シ根據ノ極メテ薄弱ナルモノナリ然ルニ第三說ハ國家カ公益ニ取リテ必要ナリ便宜ニ合ヘリト爲シテ一個人ノ所有權ヲ認ムルモノニシテ要スルニ國家ノ法令

右ノ三説ハ共ニ一理アリト雖モ未タ以テ満足スヘカラサルノ點アリ眞理ハ蓋シ之ヲ折衷シタルモノナラン

註 所有權ナルモノハ第三説ノ論スルカ如ク國家ヨリ認めラレテ生スルニ相違ナシト雖モ何故ニ國家ハ之ヲ認めヤルヘカラサルヤニ至リテハ未タ説明充分ナリト謂フヲ得ス然レトモ三説共ニ多少ノ理由ナキニ非サレハ之ヲ折衷スレハ或ハ稍満足スヘキモノヲ生スルニ至ランカ然レトモ今茲ニ斯クシテ如何ニ説明スヘキカラ論スルノ必要ナカルヘシ

一個人ノ所有權ト人身ノ自由トハ總テノ社會上ノ發達即チ文明ノ進歩ニ最も必要ナル條件タルハ疑フヘカラサルコトナリ然レトモ是レ亦決シテ動カスヘカラサル萬世不易ノ制度ト看做スヲ得ス國民ノ經濟上并ニ精神上ニ於ケル進歩ト共ニ變化スルモノナリ之ヲ歴史ニ照スニ前既ニ述ヘタルカ如ク所有權ノ性質ハ時代ニ依リテ大ニ異ナリタルモノニシテ未開ノ社會ニ於テハ人々ノ利害多クハ同一ナレハ共有財産制度専ラ行ハレ獨リ共同所有權ノミ法令ノ認め

ル所ナリ

註 社會ノ進歩發達スルニハ必ス一個人ノ所有權認めラレ且人身ノ自由認めラレサルヘカラス故ナクシテ逮捕若クハ監禁セラレ所謂切捨テ御免テウ格言行ハレ生殺與奪ノ權擧テ或一種ノ社會階級ニ在ラムカ吾人ハ爲メニ一日モ安堵スルコト能ハサルヘシ果シテ然ラハ社會ハ如何ニシテ進歩發達スルヲ得ンヤ故ニ社會文明ノ進歩ヲ望マハ必スヤ一個人ノ所有權ヲ認め以テ富ノ増殖ヲ圖ルヲ要ス之ト同時ニ人身ノ自由ヲモ認めルヲ必要トス然レトモ所有權ナルモノハ萬世不易ノモノナリト斷言スルヲ得ス蓋シ未來ノ事ハ豫メ明確ニ知ルヘカラサレハナリ歴史ニ依レハ前屢々述ヘシカ如ク太古ニ於テハ獨共同財産ノミ認めラレ其ノ時代ニハ各人ノ利害相衝突スルコト尠ナク且各人ノ欲望尠ナカリシカ故ニ財産共有ノ制度ノミヲ認めルモ敢テ支障ナカリシト雖モ今日ノ如ク各人ノ利害ハ諸種ノ點ニ於テ相衝突シ各人皆複雜至極ノ欲望ヲ有シ之ヲ充タサント欲シテ汲々タルニ至リテハ復タ古代ノ如ク獨共有財産ノミヲ認めテ十分ナルコト能ハス故ニ漸次一個人ノ所有權

制度認めラル、ニ至ルハ勢ノ當ニ然ラサルヲ得サル所ナリ、  
 之ニ反シテ文運ノ進歩ニ隨ヒ人々ノ利害互ニ相異ナリ漸々相衝突スルニ至リ  
 經濟上ノ業務モ亦次第ニ繁雜ニ趨キ社會ニ存在スル總テノ能力ヲシテ充分ニ  
 發達セシメ生産ニ必要ナル總テノ機關ヲシテ充分ニ働キ能ハシムルニハ必ス  
 ヤ法令上一個人ノ所有權ヲ認めサルヘカラサルニ至レリ而シテ此ノ所有權ハ  
 常ニ社會ノ進歩ト共ニ其ノ區域ヲ擴メ遂ニハ手ノ以テ之ニ觸ルヘカラス目ノ  
 以テ之ヲ見ルヘカラサル精神上ノモノニマテモ及フニ至レリ版權所有ノ如キ  
 ハ即チ是ナリ此種ノ所有權ハ往古ノ社會ニハ決シテ之アルコトナク獨リ進歩  
 シタル社會ニ於テノミ見ル所ナリ

此ノ如ク一個人ノ所有權ハ法令ノ一タヒ之ヲ認めテヨリ以來漸次擴張セシメ  
 ノナレトモ亦一方ニ於テハ社會ノ進歩スルニ隨ヒ一個人ノ利害ハ公共ノ利害  
 ト相衝突スル場合ヲ生スルニ至レリ

註 一方ニ於テハ一個人ノ所有權ニ關スル制度發達シテ所有權ノ目的物タル  
 モノト有形ノ貨物ニノミ止マラスシテ無形ノ財貨モ包含スルニ至レリ然レ

トモ亦一方ニ於テハ社會ノ進歩ニ伴フテ人類ノ間ニ所謂優勝劣敗ノ活劇行  
 ハレ其結果トシテ富者ハ益々富ミ貧者ハ益々貧ナルノ現象ヲ生シ且一個人  
 ノ利害殊ニ富者ノ利害ト社會公共ノ利害トハ往々ニシテ相衝突スルニ至レ  
 リ蓋シ富豪家ハ動モスレハ或事業ニ付キ獨占的ニ流レ之カ爲メニ社會公共  
 ノ利害ヲ害スルコト少ナシトセス人々ノ社會上並ニ經濟上ニ於ケル地位殆  
 ト同等ニシテ甚シキ懸隔ナキ時代ニ於テハ其利害モ全ク或ハ殆ト同一ナル  
 カ故ニ利害ノ相衝突スルコト甚シカラスト雖モ社會ノ進歩ト共ニ人類ノ優  
 劣富貧ノ著シク徑庭ヲ生スルニ至リ其利害ノ相衝突スルコト甚シキニ至ル  
 ハ蓋シ數ノ免レサル所ナリトス

故ニ後者ヲ保護センカ爲メ前者ヲ多少制限スルノ必要モ漸々増加シ來リ國家  
 ハ此目的ヲ以テ或ハ強制買収法ヲ設ケ或ハ公用徵收法ヲ敷キ因テ以テ森林鐵  
 山鐵道其他交通機關ノ所有ニ種々ノ制限ヲ加フルニ至レリ此ノ理由ニ基キ尙  
 ホ一步ヲ進メタルハ此等ノモノヲ國有ト爲スコト即チ是ナリ此國有論ニハ他  
 ニ種々ノ理由アリト雖モ主トシテ所有主タル一個人ト社會全體トノ間ニ利害

ノ衝突アルヨリシテ後者ノ被ラムトスル弊害ヲ防カントスルニ基クモノナリ

### 第一編 經濟學ノ定義

凡ソ定義ハ簡單ニシテ明瞭ナルヲ要スルモノナレハ之ヲ與フルコト實際甚タ難シ今夫レ家財器具ノ如キ單純ナル物品ニシテ之ニ適當ナル定義ヲ與ヘントスルヤ多少ノ困難ヲ見サルナシ况ヤ學問ノ定義ヲ與フルニ於テヤ尙ホ且ツ况ヤ人類ニ關スル學問ノ定義ヲ與フルニ於テヤ而シテ經濟學ハ複雜至極ノ人類社會ニ關スル現象ヲ研究スル學問ナリ今之ニ定義ヲ與ヘントスルニ方リ予ハ自ラ誰ヨリモ善ク其ノ非常ニ難クシテ到底完全ナルモノヲ得ヘカラサルヲ知レリト信ス故ニ茲ニハ唯假ニ定義ヲ掲ケ置カントスルニ過キス總テ定義ハ不完全ナルモノト覺悟セサルヘカラサルナリ

註 定義ノ規則トシテ論理學ノ指示スル所ニ從ヘハ定義ハ先ツ簡單ニシテ明瞭ナルヲ要ス簡單ニシテ明瞭ナルハ言フヘクシテ容易ニ行ハレ難キ所ナリ或ハ形容詞ヲ多ク用ヒ或ハ大言壯語ヲ以テ新聞紙ノ論說的ニ長文ヲ草スルハ却テ易スキ事ナレトモ簡單ナル文字ニ深長ノ意味ヲ包含セシムルハ明文化家

ト雖モ之ヲ最モ難シトスル所ナリ平常ノ談話若クハ演說ノ如キニ於テモ亦然リ多時ヲ費シテ喋々辯スルハ易ク言語簡潔明晰ニシテ人ニ感動ヲ與フルハ稀世ノ能辯家ト雖モ尙ホ且ツ容易ノ業ト爲シ能ハサル所ナリ今試ニ吾人周邊ノ簡單ナル道具ヲ捉ヘテ之ニ定義ヲ與ヘンニ誰カ其困難ヲ感セサラン或人戲レニ田舎ノ老爺ニ問フニ家屋ノ何タルヲ以テセリ彼答ヘテ曰ク家ハ木ヲ組立テ、造リ葺屋根ヲ葺キ人ノ住居スルモノナリト若シ此答詞ヲ以テ定義ニ充ツルノ意ナリトセハ諸君ハ噱然トシテ笑ハル、ナルヘシ何トナレハ家ナル者ハ必スシモ木ヲ以テ造ラス又必スシモ草ヲ以テ葺カサレハナリ然レトモ今若シ家ナルモノニ對シテ古今ニ通シ東西ニ亘リテ一點ノ指摘スル所ナク且論理學上ノ規則ニ從ヒテ定義ヲ下サント欲セハ極メテ困難ナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ事物ノ開卷第一ニ隙メ學問ノ定義ヲ與フルハ其當ヲ得タルモノニアラサルヤ知ルヘキノミ願レハ殆ト二十年前ニ予ノ始メテ物理學ヲ某氏ニ學フヤ氏ハ物休動靜ノ理引力ノ理等種々ノ物理學上ノ原則ヲ説明セラレタルモ未タ嘗ツテ物理學其物ノ定義ヲ敍示セラレザリシカ故ニ

予ハ之ヲ氏ニ質セシニ氏ハ答ヘテ曰ク物理學ノ定義ハ今後數日ニシテ全体ノ講義ヲ了ルト共ニ之ヲ知ルヲ得ヘシト數日ノ後其講義了ルヤ予復タ問フコト初メノ如シ某氏曰ク予ノ是マテ講述シタル所ハ即チ物理學ノ定義ナリト予大ニ悟ル所アリテ氏ノ至言ニ服セリ

此ノ如ク簡單ナル有形ノ貨物又ハ比較的複雜ナラザル學問ノ定義ニシテ既ニ然リ況ヤ經濟學ノ如キ人類社會ノ複雜至極ナル組織ノ下ニ發生スル現象ヲ研究スル學問ノ定義ヲ下サントスルニ於テ予予ノ此所ニ下サント欲スル定義ハ唯タ假ニ擧クルニ過キス其不完全ナルハ固ヨリ自認スル所ナリ經濟學ノ何タルヤヲ知ラント欲セハ先ツ經濟トハ如何ナルコトヲ意味スルヤヲ知ラサルヘカラス經濟トハ泰西ノ學問カ未タ本邦ニ開ケサリシ以前ニ於テ既ニ存在セル語ナレトモ之ニ學ノ字ヲ附シテ英語ノ「ポリチカル・エコノミー」[Political Economy]ニ適用シタルハ大凡三十年來ノコトナリ而シテ經濟ノ二字ハ世間普通ニ使用スル所ノ意義ニ依レハ儉約若クハ節儉等ノ意義ヲ有ス

註 經濟學ノ何タルヲ知ラント欲セハ先ツ經濟ノ意味ヲ知ラサルヘカラス

テ之ヲ差押フヘキモノトセリ

以上ノ三段ノ手續ヲ以テ意納處分ヲ執行スルモノニシテ或手續ヨリ次ノ手續ヲ行フマテニハ必ラス相當ノ期日ヲ置クコトヲ要シ又差押物件ヲ公賣スルニ當リテハ成ルヘク最高價ヲ得シカ爲メニ妨碍ヲ爲サ、ルコトニ注意スルヲ要シ佛國ニ於テモ獨逸ニ於テモ必ス意納處分法ニ規定シテ曰ク「收稅官吏又ハ處分官吏若シ公賣ニ附セラレタル差押物件ヲ自己ニ買入ル、トキハ其職ヲ免セラルヘシ」下而シテ公賣ニ由リテ得タル金額義務額ヲ超過スルトキハ意納間ノ利子ヲ徵收シ尙ホ超過スルトキハ之ヲ還付ス

法律カ強制的ニ納稅セシムル要件ハ以上ノ如シ然レトモ時トシテ法律ヲ以テ或ハ一個人若クハ一體ニ意納又ハ免除ヲ許可スルコトアリ即チ洪水地震等ノ天災地變アルニ當リテ法律上之ヲ免除スルカ如キ是ナリ此等ノ特例ヲ除クノ外ハ意納稅ヲ徵收スル方法ハ嚴正ナルヲ可トスルカ又ハ寛大ナルヲ可トスルカト云フニ其嚴正ナルヲ以テ財政ノ宜シキヲ得タル徵候ト謂フヘシ何トナレハ之ヲ嚴正ニセス狡猾ナル租稅義務者ニ對シテ不必要ナル寛大ノ取扱ヲ爲



スハ正直ナル義務者ニ不當ノ義務ヲ負ハシムルニ至レハナリ獨逸ニ於テハ「レデリック」天王以來佛國ニ於テハ「ナポレオン」第一世以來意納處分ノ方法其宜シキヲ得ルニ至リタルハ自他ノ共ニ認ムル所ナリ之ニ反シテ露國及ヒ埃國ハ意納處分寬大ニ過クルノ說アリ即チ露國政府ニ於テハ千八百十四年ニ三千「ルーブル」ノ意納稅ヲ免除シ之ニ代フルニ紙幣ヲ發行シタリ然ルニ千八百十八年ニハ再ヒ九千八百「ルーブル」ノ意納稅アルニ至レリ年々歲々意納稅ノ増加シタルカ爲メ其財政全ク紊亂シタリ又埃國ニ於テモ意納稅ノ總額ハ平均三割九分ニ當ルト云フ千八百六十九年同國ノ其伯爵ハ或銀行ヲ買受ケタリシカ該銀行ハ千八百三十四年以來三十餘年間租稅未納ナリシト云ヘリ此ノ如クニシテ安ンン國家ノ財政紊亂セザラント欲スルモ得ヘケンヤ之ニ反シテ獨逸ニ於テハ意納稅額ハ平均二分八厘七毛佛國ニ於テハ四分乃至八分ニ過キスト云フ蓋シ意納稅ノ割合ハ一國財政上大ニ考慮ヲ要スルモノニシテ以テ一國經濟上ノ狀況ヲ知ルヘク以テ一國財政ノ整否ヲ知ルヘシ或學者ハ曰ク「滯納稅ノ割合ハ一國經濟ノ有様ヲ知ル好晴雨計ナリト」眞ニ然リ

國家財政ノ整理秩序ヲ紊亂スルモノハ未納租稅ヲ年々繰越スホト甚クシキモノハ未タ曾テ之アラサルナリ故ニ期滿免除ノ制ヲ立ツルコトハ太ク必要トス加之未納租稅年々繰越スヲ以テ財政ヲ紊亂スルモノトセハ則チ其ノ期滿免除ノ年限ハ成ルヘク短縮スルヲ以テ適當トス是レ今日學者ノ定説トスル所ナリ佛國ニ於テハ直稅ノ期滿免除ハ三年ニシテ獨逸ハ四年ナリ而シテ此等ノ期限ハ或ハ告知又ハ差押等ノ手續ノ爲メニ中斷セラル、モノトス「スタイン」氏曰ク地稅ノ未納ハ之ヲ土地臺帳ニ記入シ若シ期滿免除以內ニ其土地ノ賣買ヲ爲ストキハ之ヲ追徵スルノ方法ヲ採ルヘシト凡ソ信用ノ期限ハ成ルヘク短縮スヘシトハ一般ノ定説ナリ蓋シ其目的ハ過度ノ信用ヲ防クニ在リ故ニ期滿免除ノ期限モ亦成ルヘク之ヲ短縮スヘク又曾テ財政家ノ爲シタルカ如ク未納ノ久シキヲ經テ且徵收ノ見込ナキモノハ全ク之ヲ拋棄スルモ可ナリ是レ佛國ノ賢相「コルベ」ル「方」千八百六十二年ニ施行シテ大ニ聲譽ヲ博シタル一策ナリ

## 第二十六節 脫稅及其刑罰

財政學

脱税トハ法律ヲ以テ特ニ禁シタル手續ヲ以テ租税ノ一部又ハ全部ヲ徴收スヘ  
カラサラシムルヲ云フ

脱税者ニ科スヘキ刑罰即チ租税刑法ノ事ハ從來ノ財政學者及ヒ刑法學者共ニ  
其研究ヲ怠レリ最モ能ク之ヲ論シタルハ「ソダネル」氏ノ「財政學ニシテ「スタイン」  
氏之ニ次ク而シテ其實際ハ種々ノ稅法中ニ散在セリ

租税刑法ノ範圍内ニ入ルモノハ通常ノ刑法ノ範圍内ニ入ラサルモノナリ例ハ  
租税官吏ニ反抗シ又ハ之ヲ侮辱シタルトキハ通常ノ刑法ニ依テ其罪ヲ論ス  
ヘシ故ニ此等ノ所爲ハ租税刑法ノ關スル所ニアラス租税刑法ハ租税法ヲ以テ  
命シタル手續ヲ以テ租税ヲ納ムル義務ヲ免カレンカ爲メニ其一部分又ハ全部  
ノ徴收ヲ爲スコト能ハサラシムル所爲ヲ罰スルモノナリ

脱税ヲ二種ニ區別シテ論スル者アリ其一ヲ「ウンタルラセン」ト云ヒ其二ヲ「フロ  
ード」詐欺ト云フ「ウンタルラセン」トハ法律カ印紙ノ貼用ヲ命スル場合ニ之ヲ貼  
用セサルモノヲ云ヒ「フロード」トハ租税目的物ノ分量性質等ヲ偽ルモノヲ云フ  
然レトモ余ハ此二種ノ脱税ハ其歸スル所ヲ一ニスルモノト信ス而シテ何レノ

種類ノ脱税モ間接税ニ多ク直接税ニハ比較的ニ少シ是レ租税ノ性質ノ然ラシ  
ムル所ナリ又直接税ニ付テハ其租税義務ヲ搜索計算スル方法ニ依リテ脱税ヲ  
増減スルモノニシテ其方法ニハ國家カ自ら進ンテ税源ヲ探究スル方法ト義務  
者ヲシテ自ら申告セシムル方法トノ二種アリ若シ第二ノ方法ヲ多ク採用スル  
トキハ脱税モ亦隨テ多カルヘシ

法律上許サレタル期限内ニ故ラニ租税ノ納付ヲ遲滞スル者ハ脱税者ト看做シテ  
處分スヘキヤ否ヤハ一問題ニシテ普獨等ハ故意ニ遲滞シタル者ハ「百ターレル」  
以下ノ罰金四週間以下ノ禁錮ニ處スヘキモノトセリ然レトモ法律ノ當否ハ學  
者間未決ノ問題ナリ或ハ曰ク國家カ滞納ノ爲メニ被フリタル損害ハ滞納處分  
ノ手續ニ依リテ既ニ之ヲ回復シタルモノナリ故ニ更ニ之ニ刑罰ヲ加フルノ要  
ナシ殊ニ此刑罰ハ濫用ノ恐ナシトセス即チ政治上ノ競争激烈ナル時ニ當リテ  
不當ノ租税ヲ課シ義務者カ其不當ヲ争フ爲メニ期限ヲ經過スルヲ待チテ收税  
官吏此刑罰ヲ濫用シテ禁錮ニ處スルカ如キ弊害ヲ生スルコトヲ免カレヌト  
脱税ニ關シテ社會公議ノ輿論ハ今日尙ホ甚々寬ニ過タルヲ免カレヌ何トナ

レハ今租稅義務者カ其租稅ヲ免脱シタリトセンニ社會ハ甚タシク其不法不徳ヲ責ムルコトナケレハナリ是レ國家ノ爲メニ最モ憂フヘキ事ニアラスヤ而シテ此事實ト最モ親密ナル關係ヲ有スル他ノ事實アリ即チ租稅ニ關スル事件ハ今日ニ至ルマテ何レノ國ニ於テモ主トシテ之ヲ行政官即チ收稅官吏ニ委任シ之ヲ司法官ノ管轄ニ屬セシメス其刑罰モ多クハ罰金ニシテ禁錮ニ處スヘキ場合ト雖モ亦之ヲ行政官ノ判斷ニ任スルコト是ナリ而シテ租稅ニ關スル刑法ノ研究ノ今日尙ホ未タ發達セサル所以ノモノ亦決シテ偶然ニアラス時ノ古今ヲ問ハス洋ノ東西ヲ論セス人類ハ自己經濟上ノ私利ニ付テハ精勵節儉且熱心ニ之ヲ經營スレトモ却テ公共ノ事ヲ顧ミス是レ殆ンド人類固有ノ性質トモ稱スヘキモノナリ此性質ハ個人自由ノ主義及ヒ私產制度ノ主義ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ此性質ノ結果トシテ個人相互ノ間ニ法律ニ違反スルコトアレハ之ヲ不徳義ナリ背法ナリトシテ非難スルニ拘ラス公共經濟ニ關スル法律違背ニ付テハ敢テ之ヲ咎メス是レ實ニ人類ノ一弱點ト云ハサルヲ得ス若シ國民トシテノ教育普及シテ愛國心益々厚キヲ加ヘ租稅ノ制度整頓シ國家支出ノ目

的明瞭ナルニ至ラハ詐欺ヲ以テ租稅ヲ免脱スルコトモ又個人相互ノ契約ニ違反スルコトモ其間差別ナク共ニ之ヲ非難スルニ至ラン然レトモ此ノ如キ時代ニ到着スルニハ前途尙ホ遠遠ニシテ殆ト之ヲ想像スルコトヲ得ス國家ノ境關ヲ守ルコト猶ホ自家ノ門戸ヲ嚴ニスルカコトキ愛國心ノ強盛ヲ致ス是レ果シテ何レノ日ソ交通稅及ヒ消費稅等ノ間接稅ノ場合ニハ之ヲ監督スル所ノ法規甚タ複雑ナルヲ以テ之ニ違反シタルハ過失ニ出テタルモノナルカ抑モ又惡意アリテ然ルカヲ判定スヘカラサル場合多シトス

ワグネル氏ハ租稅刑法ニ關シテ最モ深く研究シタル學者ナリ氏ハ租稅ニ關スル犯罪ハ宜シク名譽刑ヲ以テ之ヲ制裁ス可シト云ヘリ此說ハ未タ遽カニ同意ヲ表スルコト能ハサル所ニシテ同氏ハ千八百八十四年普國下院ノ議員タリシトキ租稅委員ト爲リテ經驗シタル後自ラ歎シテ曰ク租稅違反ニ關スルコトハ何レノ政黨員モ舉テ予ノ意見ニ反對シタリト同氏ノ第二ノ結論ニ曰ク租稅ニ關スル法規ニ違反シタル者ハ之ヲ通常裁判所ニ於テ審理シ之ヲ行政官ノ判定ニ委任セサルコト、スヘシト此結論ニハ同意ヲ表セサルヲ得ス伊太利ニ於テ

ハ收税官吏ハ裁判所ニ出訴スヘキモノトシ佛國ハ收税官吏ノ出訴ハ府縣會ノ議決ヲ經サルヘカラスト爲セリ是レ蓋シ歴史上ノ理由ニ基キタルモノニシテ即チ選舉干渉ノ反動ナリトス又否サルモ行政官ノ下シタル判定ニ對シテハ之ヲ裁判所ニ出訴シ再審ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノト爲スヲ當然トス

租税刑罰ハ其犯罪ノ度數ニ因リ或ハ事情ノ輕重ニ應シテ種々ノ階級ヲ設ケサルヘカラスト獨逸千八百三十八年ニ制定シタル國境稅聯合ニ關スル刑法ニ依レハ詐欺ヲ以テ國境稅ヲ免脱シタル者ハ其詐欺シタル物ヲ沒收シ之ニ加フルニ應ニ納ムヘキ稅額四倍ニ相當スル罰金ヲ追徵シ再犯者ハ尙ホ其罰金ヲ倍加シ三犯以上ハ四倍ヲ追徵ス若シ之ヲ納ムル能力ナキトキハ自由刑ヲ科スルコト、シ大抵三犯以上ハ六ヶ月以上ノ禁錮又ハ繫獄ノ刑ヲ科シ營業者ニハ五年以內其營業ノ停止ヲ命スルコトヲ得又課稅物ヲ運搬スルニ當リ之ヲ隱蔽シテ發見シ得ヘカラサラシムルトキハ其刑ヲ倍科シ又ハ其事情ヲ酌量シテ之ヲ重ク論ス若シ三人以上通謀シテ詐欺ヲ爲シタルトキハ其主謀者ハ三ヶ月以上六ヶ月以下ノ禁錮ニ處シ參與者ハ一ヶ月以上三ヶ月以下ノ禁錮ニ處セラレハタ若

シ保險ノ保護ノ下ニ詐欺ヲ爲シタル者ハ獨逸ニ於テハ脫稅ヲ爲サンカ爲メニ其保險ヲ約スルコト有リ以テ國境稅沒收ノ多キヲ知ルヘシハ特ニ之ヲ重ク罰ストセリ然レトモ此法律ハ千八百六十九年ニ至リ之ヲ改正シテ稍寬ト爲リタリ今該國ニ於テ千八百八十六年及ヒ千八百八十七年ノ關稅及ヒ租稅ニ關スル犯罪者ヲ聞クニ三万二千三十二件內詐欺ヲ以テ沒收稅ヲ課リタル者一万七千八百九十六人命令ニ反抗シタル者一万三千二百九十五人自由刑ヲ科セラレタル者七百六十四人ナリ又詐欺ヲ以テ沒收稅セントシタル租稅總額ハ七万六千五百マルクニシテ之ニ對シ追徵セタル罰金額ハ實ニ四十五万六千二百十六マルクノ多キニ達セリト云フ

英國ニ於テハ詐欺ヲ以テ海關稅及ヒ內國國產稅ヲ沒收セントシタル物ハ其詐欺ニ係ル物ヲ沒收シ尙ホ其物ノ價格三倍ニ相當スル罰金ヲ附科ス(「グナイスト」氏英國行政法又佛國ニ於テハ海關稅ニ關シテ特別ノ刑ヲ設ケ過失ニ出テタル沒收モ亦之ヲ罰スルモノトセリ凡ソ海關稅ニ關スル法規ハ各國共ニ嚴重ニシテ殊ニ米國ノ如キハ保護貿易ノ主義ヲ取ルカ故ニ最モ嚴重ニシテ人之ヲ「ドラ

ゴン(異名ノ)的ト評セリ今其一例ヲ示セハ密ニ船荷ヲ積込ミタルトキハ其積荷ハ悉ク之ヲ沒收シ其價格四百弗以上ニ及フトキハ船舶ヲモ亦之ヲ沒收ス尙ホ之ニ加フルニ其事ニ干與シタル者ハ主謀者タルト參與者タルトヲ問ハス四百弗ノ罰金ヲ科シ且七年間公務ニ從事スル權ヲ剝奪ス又故意ニ輸入品ヲ稅關ニ於テ偽リタル者ハ二千弗以下ノ罰金又ハ二ヶ年以下ノ禁錮ニ處シ若クハ之ヲ併科スルカ如キ是ナリ

千八百七十三年ノ普國相續稅法ニ依レハ其違反者ニ義務額二倍ニ相當スル罰金ヲ科シ埃國ニ於テハ家賃稅ヲ詐欺シタル者ハ其告發者ニ詐欺額ヲ給與シ其詐欺者ハ詐欺額二倍ノ罰金ニ處セラレ、モノトス

### 第二十七節 收入稅即々所得稅ノ長所

若シ或ル方法ノアルアツテ各租稅義務者ノ純收入又ハ自由收入ヲ精確ニ計算シ得ルニ於テハ直ニ之ヲ以テ比例的又ハ適當ノ累進的收入稅ノ基礎ト爲スヲ得ヘク此ノ如キ收入稅ハ諸般ノ收入稅ニ優ルコト萬々ナル可シ千八百三十三年ノ(ヘーヅァン)國ノ所得稅法ニ曰ク營業ノ爲メ及ヒ生計ノ爲メニ必要ナル支出

ハ之ヲ免除シ尙之ニ加フルニ明ニ知ラレタル負債ニ對スル利子國家又ハ町村ニ支拂フ所ノ收益稅既ニ課稅セラレタル株式會社ノ利子又ハ利益配當ニハ所得稅ヲ免除スヘシト(第十九條)是純收入ヲ目的トスルモノニシテ最モ其當ヲ得タルモノナリ然レトモ埃地利國所得稅法ニハ此等ノモノヲ免除セス學者其不當ナルコトヲ論セリ

「ヘルフ、リ、ユ」氏言ヘルアリ曰ク大收入ヲ有スル者ハ其負擔モ亦大ナルヘシト主張スル者ハ請フ總テノ場合ニ於テ大收入ヲ有スル者ハ必ラス大納稅能力ヲ有スルモノタルコトヲ證セヨト蓋シ大收入ヲ有スル者ト雖モ種々ノ事情ニ因リ必ラスシモ大納稅能力ヲ有スル者ニアラス故ニ必ラス自由收入ヲ目的トセサルヘカラサルコトヲ言ヘルナリ

租稅ハ宜シク比較的ナルヘシトノ理想ハ實際何レノ國ノ所得稅法ニ於テモ現今尙ホ未タ十分ニ之ヲ達シタルモノアラズ若シ理想的又ハ學理的ニ人ノ或期間ノ收入ヲ計算セント欲スルトキハ其期間内絶エス土地ノ價格又ハ資本ノ價格等ノ増減變動ヲ一々調査精算セサルヲ得ス是レ豈有數ノ調査員ヲ以テ無數

ノ所得稅納者ニ對シテ爲シ得ヘキコトナランヤ管ニ適當ナル調査ヲ爲シ能ハサルノミナラス多クノ國ノ所得稅法ニ依ルモ收入ナルモノ、中ニ埋沒セララル、所ノ保險料及ヒ元入金等ヲ其實際ノ收入中ニ計算スルカ如キ混同ヲ爲シ其甚タシキニ至テハ鐵脈ノ將ニ盡キントスル鑛山ノ收益ニ課スルニモ尙ホ農業ニ課スルモノ、二倍ノ所得稅ヲ以テスルモノアリ故ニ比較タルヘキ原則ハ未タ實行セラレサルナリ

或危險多キ職業ヲ營ム者カ非常ノ利益ヲ占メタル時ニ當リ其格外ノ利益ニ課稅スルモノトセハ若シ次年ニ於テ同人カ非常ノ損失ヲ爲シタルトキハ國庫ハ相當ノ還給ヲ爲サ、ルヘカラス或外國商人ノ談話ニ依レハ彼ハ多幸ノ年ニ於テモ其收入ヲ實際ヨリ低ク申告ス是レ蓋シ他ニ理由アルニアラス不幸ノ年ニ於テ過重ニ課稅セラル、カ爲メニ納稅能力ヲ缺クニ至ルノ不名譽ヲ避タルカ爲メノミト云ヘリ即チ多年ノ收入ヲ平均シテ其平均額ニ課稅スヘキノ原則ヲ表明スルモノナリ而シテ亦以テ比較的ニ課稅スルノ困難ナルヲ知ルヘシ故ニ如何ニ完全ナル所得稅法ト雖モ理想的ニ之ヲ觀察スレハ決シテ比較ノ課稅

ナルモノアラズ人ニ因リテ差アリ又其家屬ノ多少ニ因リテ同シカラスト雖モ此ハ始ク措キ同額ノ收入ト雖モ種々ノ原因ヨリシテ其經濟力ニ著シキ差異アルモノトス蓋シ其收入ノ性質カ世襲的ノモノナルト其一生涯ヲ限ルモノナルト將タ其者ノ老朽ノ爲メ若クハ疾病其他ノ原因ノ爲メニ之ヲ中斷シ又ハ亡失スルノ恐アル所ノモノ即チ所謂人的收入ナルトニ因リテ其者キ納稅能力上ニ少ナカラサル影響ヲ及ホスモノナレハナリ伊太利ノ所得稅法ハ其收入ヲ四種ニ區別セリ即チ第一永久ノ收入(即チ資本ノ利子)ノ如シ第二資本ト勞力ト結合シタル結果トシテ生スル收入即チ商工業ヨリ生スル收入ノ如キ是ナリ第三勞力ノミヨリ生スル收入(即チ俸給ノ如キ其ナリ)第四下等ノ勞力賃銀ニシテ第一類ニ屬スル者ハ所得稅金額ヲ課シ第二類ニハ八分ノ六第三類ニハ八分ノ五第四類ニハ八分ノ四ニ課稅セリ又露國ノ所得稅法ニ依ルニ其收入額ヲ容易ニ確知スルコトヲ得ル人ノ收入ハ其額ノ四分ノ三ニ課稅スルモノトセリ

或ハ說ヲ爲ス者アリ曰タ一時ノ收入アル者ハ一時ノ所得稅ヲ拂ヒ永久ノ收入

ヲ有スル者ハ永久ノ所得税ヲ支拂ヒ其間決シテ權衡ヲ失スルコトナシト蓋シ此說ハ所得税ノ關スル所ハ人ニ非スシテ其物件ナリト云フ虛妄ノ見解ヲ基礎トシテ立テタルモノニシテ以テ種類ノ異ナル收入ニ同率ノ所得税ヲ課スルモ不可ナシトノ理由ト爲スニ足ラス

官吏ハ其俸給ヲ以テ子弟ヲ教育セザルヘカラス醫師代言人等ハ其受クル所ノ報酬ヲ以テ老後ノ計ヲ爲サ、ルヘカラス其他尙ホ種々ノ事情ノ纏綿スルモノアリ然レトモ地主及ヒ實本家等ハ假令同額ノ收入ナルモ以テ老後ノ計ヲ講スルコトヲ要セス是所得税法ニ於テ兩者ヲ殊ニセザルヘカラサル所以ナリ

「ミル氏其經濟論ニ於テ論シテ曰ク生命保險ノ目的ノ爲メニ善意ヲ以テ爲シタル支出ハ之ヲ收入ノ中ヨリ扣除スルヲ相當トスト又實際英國ニ於テハ其生命ヲ保險スル者又ハ國家ヨリ公ニ認メタル友誼的會社ニ加入スル者ハ其所得税ノ六分ノ一ヲ免除スルコト、爲セリ

以上述ヘタルカ如キ缺點アルニモ拘ハラズ所得税ハ苟モ臣民カ名譽ヲ重シテ

之ニ服從スル以上ハ諸種ノ租税中ニ付テ最モ比較的ナルコトハ疑ヲ容レズ是レ所得税ノ第一ノ長所ナリ又其第二ノ長所ハ其租税ノ移轉少クシテ納税者カ即チ實際負擔者ナルコト是ナリ其移轉ノ少キカ爲メニ交通取引ヲ紊亂シ又ハ之ヲ妨害スルコト少シトス又監督上必要ナル諸般ノ手續ノ爲メニ間接ニ生産事業ヲ妨害スルコトハ實ニ多クノ租税ノ通弊ト云フモ不可ナシ然ルニ此弊書ハ所得税ノ場合ニハ全ク存スルコトナシ是レ亦長所ノ一トシテ擧クルコトヲ得ヘシ

一個人ノ節約ヲ促ス點ニ於テハ所得税ハ決シテ良結果ヲ生スルモノニアラス何トナレハ資本構成ノ爲メニ充用セラル、收入ノ部分ハ二重ニ課税セラル、ヲ以テナリ「サルガン」氏英國政治家曰ク「己レノ財産ヲ擧ケテ浪費スル者ハ全ク所得税ヲ免ル、モノナリト又「バイフル」氏(獨逸人)ハ其著國家收入論ニ於テ論シテ曰ク「所得税ヲ課スルノ基礎ハ收入ヨリハ寧ロ消費ニ在リト氏ノ說ハ決シテ其正鵠ヲ得タルモノニアラス若シ消費ヲ以テ基礎ト爲シ所得税ヲ課スルトキハ地主ノ如キハ消費少ク之ニ反シテ官吏醫師代言人ノ如キハ消費多キヲ以テ官吏

醫師代言人ハ地主ヨリモ多クノ所得税ヲ負擔セサルヘカラサルニ至ル然ルニ尙ホ敢テ此言ヲ爲スモノハ是レ即チ所得税ノ資本構成ヲ害スルコトヲ言フニ外ナラス氏又曰ク消費ヲ基礎トシテ所得税ヲ課スレハ其收入ハ他ヨリ之ヲ量知スルコトヲ得ヘシト例ヘハ茲ニ毎年一萬圓ノ收入ヲ有スル者アリ其中二千圓ヲ資本トシテ積置カンニ若シ所得税率ヲ五分トセハ一萬圓ノ收入ニ對シテハ五百圓ヲ拂ハサルヘカラス而シテ其資本トシテ用非タル二千圓ハ更ニ若干ノ收入ヲ生シ其收入ハ復所得税ヲ負擔セサルヘカラス即チ同一ノ收入ニシテ二重ニ租税ヲ負擔スルモノトス之ニ反シテ若シ其收入ヲ擧ケテ不生産的ニ使用セハ唯一度租税ヲ負擔スルヲ以テ足レリトス

斯ノ如ク一私人ノ節約上ニハ良結果ヲ生セスト雖モ之ニ反シテ公ノ節約上ニハ所得税ノ結果ハ良好ナリト論スル者アリ何トナレハ此租税ヲ要求スル所ノ政府モ之ヲ協賛スル所ノ議員モ共ニ其抑壓ノ程度ヲ裝フ能ハサルコトヲ決シテ忘却セサレハナリ

所得税ハ國民ノ富度ノ増加スルニ隨ヒテ自ラ國庫ノ收入ヲ増加スルコトヲ得

ヘシ是亦此租税ノ利益ナリトス又所得税ハ奢侈税ノ如ク其徵收スル所ノ收入不確實ナラス故ニ曾テ英國ニ於テ其豫算ト實際徵收シタル額ト恰モ同一ニシテ一錢ノ差異モナキコトヲ得タリト云フ

### 第二十八節 所得税ノ短所

所得税ノ如ク調査登錄ノ困難ナルモノハ他ニ其比ヲ見サル所ナリ若シ官吏ヲシテ直接ニ各人ノ家ニ就テ其收入ヲ調査セシメントセハ而モ其調査ヲ十分ナラシメント欲セハ其必然ノ結果トシテ大ニ義務者ノ内情ニ干渉シ嫌疑スヘキ結果ヲ生スヘシ殊ニ其目的の物件ハ常ニ變動止マサルモノナレハ此嫌疑スヘキ訊問探求ヲ年中間斷ナク繼續セシメサルヲ得サルヘシギボンノ羅馬史ニ依ルニ古昔ベシリヤスマセド王カ其屬僚ノ力ヲ假リテ租税制度ヲ改正セントシ大臣ノ奏請セシ人名表ヲ一覽セタルニ其職ニ堪ユル者ハ二人ヨリアラザリレヲ以テ已ムヲ得ス之ニ任命セントシタリ然ルニ其二人トモ固辭シテ受ケザリレト云ヘリ亦以テ其探求ノ困難ナルヲ知ルヘキナリ然ルニ「（獨逸の）シエーレヅッセル（獨逸の）」ニ於テハ近年マテ千五百二十七年ニ調製セタル帳簿ニ依リテ所得税ヲ課シタリ



ト云フ(ラ)ンケ氏獨逸史ニ依ル所ノ如ク數百年間同一ノ帳簿ニ依リ所得稅ヲ課シタルハ實ニ驚クヘキ事實ト謂ハサルヲ得ス而シテ若シ收入ヲ調査スルニ當リテ不十分ナルトキハ當ニ最モ危險ナル專制的隨意的ノ結果ヲ生スルノミナラス常ニ收入ヲ低ク見積ルノ弊ナキヲ得ス蓋シ之ヲ高ク見積ルトキハ義務者ハ忽チ其不當ヲ訴フルモ低キトキハ默シテ言ハサレハナリ殊ニ其資本ノ遠隔ナル地ニ於テ用弁ラル、モノニ付テハ必ラス其收入ヲ低ク見積ルノ傾向アリ普國ノ階級稅法ニ依レハ町村吏員ハ常ニ義務者ノ諸般ノ關係ニ付キ可成十分ナル報告ヲ得可シ但シ餘リ義務者ノ内情ニ立入ルヘカラスト規定セリ是レ實ニ其當ヲ得タルモノト謂フヘシ

義務者ヲシテ自ラ其所得額ヲ届出ラシムルトキハ下級ノ義務者ハ自ラ帳簿ヲ調製スルコト少ク又其經濟モ自然的ナルモノ多シトス(自然的經濟トハ自ラ耕シ自ラ收メ自ラ衣食スルカ如キ自然ニ生産スル物ヲ以テ其經濟ヲ立ツルヲ云フ我邦維持前マテハ亦自然的經濟ノ遺制ヲ存シタリ隨テ其義務額ヲ定ムルコト困難ナリ之ニ加フルニ或ハ詐欺ノ申告ヲ爲ス者亦少ナカラス所得稅ノ如ク詐

欺ノ爲シ易キモノハ非ズ或ハ論スル者アリ曰ク或ハ自己ノ信用ヲ増進セシメカ爲メ若クハ其地位ヲ高カラシメメンカ爲ニ故ラニ實際ヨリ多ク申告スル者多カルヘシト然レトモ所得稅アリテ以來此ノ如キ例ハ實際頗ル稀有ニシテ又多クハ一時ニ止マリ實際上永久確定ノモノト認ムルコトヲ得ス又所得額ヲ詐リ爲ニ得ル所ノ利益タル決シテ鮮少ナリトセス且之カ隱秘ヲ遂クルノ希望頗ル大ナルコト海關稅ニ於ケルト異ナラス加フルニ收入即チ所得ナル語ハ曖昧ニシテ收入ニハ純收入アリ總收入ヨリ生産費用ヲ扣除セタルモノ之ヲ純收入ト云フト雖モ所謂生産費用ナル語モ亦曖昧ナリ故ニ正直ナルモノハ常ニ疑義ヲ懷クヘク半ハ正直ナル者ハ其曖昧ナルニ乘シ口實ヲ設ケテ良心ノ責ヲ免カルヘシ獨逸ノライプチヒ府ニ於テ千八百四十九年ニ一人タモ所得額ヲ申告シタル者ハアラサリキ故ニ之ヲ調査シタルニ住民ハ皆所謂收入トハ總テノ支出ヲ爲シテ尙ホ後ニ殘リタル者ヲ云フト解釋シタルニ由レリト云フ又千八百七年普魯西ニ於テ財產不安固ノ爲メ及ヒ流通停止ノ爲メ人々ハ實際其收入ヲ明確ニ言フコト能ハサリシト云フ又半ハ正直ナル者ヲシテ或ハシムルコト有

リ即チ他ノ義務者モ大抵ハ眞實ノ申告ヲ爲サ、ルヲ以テ自己モ亦眞實ヲ申告セザルモ敢テ咎ムヘカラスト爲スコト是ナリ若シ他ノ者カ眞實ノ申告ヲ爲サ、ルニ自己獨リ眞實ノ申告ヲ爲ストキハ競争上不利益ナルヲ免カレヌ故ニ「マツカロック」氏ノ租稅論ニ曰ク「所得稅トハ所得ニ課スルモノニ非スシテ名譽心ニ課スルモノナリ換言セハ偽誓及ヒ詐欺ニ對スル保險料ナリ」ト「ミル」氏ハ論シテ曰ク「所得稅ハ良心ヲ重ンスル者ニ最モ重シ」ト是皆其短所ヲ指シタルモノナリ「グラット」ストン氏モ亦千八百五十八年ニ論シテ曰ク「所得稅ハ國民ノ德義腐敗ヲ補助スル點ニ於テハ殆ト他ニ其ノ比ヲ見ス恰モ法律ヲ以テ詐欺ヲ誘フニ同シ」ト

斯ノ如キ弊害ヲ矯正シ義務者ヲシテ眞實ノ申告ヲ爲サシムル爲メニ普通ノ手續ノ外ニ特別ノ手續ヲ施スコト有リ即チ左ノ如シ

第一 所謂所得ナルモノヲ特定スルコト即チ以テ正直ナル者ヲ誤解ヨリ救済シ半ハ正直ナル者ヲシテ遁辭ヲ設クルコトヲ得サラシメ又收稅吏等ノ解釋ヲシテ一定ナラシムル爲メ所謂所得ナルモノヲ特定ニ指定スルニ在リ「サキンニー」國ノ所得稅ニ於テハ申告ノ書式ヲ定メテ之ヲ四項ニ分テリ即チ第一土地所有ヨリ生スル收入即チ農業又ハ山林ヨリ生スル收穫及ヒ<sup>土地</sup>地貸與ヨリ生スル收穫農夫ヲ傭入若クハ自家ニ於テ耕作シテ得タル收穫等第二資本利子家屋ノ貸賃會社ノ配當金、嶺山ヨリ生スル利益等第三俸給恩給貸銀即チ政府又ハ其他ノ傭主ヨリ受クル所ノ報酬第四商工業及ヒ外國土地ノ耕作ヨリ生スル收益等トス又英國ニ於テモ千八百三年以來收入ヲ特定スル方策ヲ取レリ而シテ之ヲ特定スルトキハ脱漏ノ恐アルヲ以テ成ルヘク總テノ所得ヲ網羅セザルヘカラス

第二 他ノ原因ヨリ知ラレタル事實ニ依リ調査監督ヲ爲スコト例ヘハ相續ニハ相續稅ヲ拂ハシムルヲ以テ其相續財產ハ明瞭ナルヘシ又會社銀行ニ於テハ決算報告ヲ爲スヲ以テ其收入ヲ知ルコト容易ナリ此等ノ事實ヨリシテ各義務者ノ申告ノ眞實ナルヤ否ヤヲ調査スヘシ又時トシテハ或事實ヨリ之ヲ調査利用スル爲メ一局ヲ新設シ其役員ノ費用ハ發見スル所ノ詐欺額ノ何分ヲ以テ之ニ當ツルトキハ政府ノ經費ヲ増加セシテ多少其眞實ヲ知ルコトヲ得ヘシ

第三 負債ノ利子ハ總收入額ヨリ扣除シ其殘額ヲ所得額トスルトキハ其負債ハ詐欺ヲ爲スノ好材料ト爲ルコトアルヘレ故ニ一方ニ於テ債權者ノ收入ヲ調査シ雙方連絡シテ之ヲ監督シ以テ詐欺ノ申告ヲ防遏セサルヘカラス然ルニ債權者カ若シ所得税賦課以外ニ在ルトキハ之ヲ監督スルコトヲ得サルノ不便アリ

第四 英國ノ如ク銀行制度發達シテ私人ノ大抵ノ取引及ヒ支拂ニ銀行ヲ介入スル場合ニ於テハ銀行ト照會往復シテ調査スルトキハ良結果ヲ得ヘシ

第五 選舉權及ヒ被選舉權ヲ所得税額ニ依テ階級ヲ附スルトキハ所得額ヲ成ルヘク多ク申告セシムル方策ト爲スニ足ルヘシ然レトモ共和的思想ノ盛ナル殊ニ普通選舉ノ行ハル、所ニ於テハ此方法ハ全ク其効ヲ見サルヘシ

第六 所得額ヲ眞實ニ申告スルト否トハ全ク國民ノ愛國心及ヒ德義ノ厚薄ニ存スルヲ以テ若シ之ヲ國民ノ愛國心及ヒ德義心ニ訴フルモ亦一方策タルヘキモ此方策ハ必スシモ其成功ヲ期スルニ足ラサルナリ  
斯ノ如ク所得税ハ其收入ノ眞實ヲ知ルヘカラサルヲ以テ不正ナル者ニ輕ク却

テ正直ナル者ニ重キ一大缺點アルヲ免カレサルナリ

### 第二十九節 所得税ノ豫備的性質

前二節ニ於テ陳述シタルカ如キ取得税ノ弊害ヲ成ルヘク少ナカラシメ且成ルヘク其利益ヲ多ク收メンニハ其方策唯一アルノミ即チ取得税ハ中等社會以上ノ生計ノ豊裕ナル者ニノミ其課税ノ範圍ヲ限リ而シテ平時事ナキノ時ニ際シテハ其税率ヲ最低クシ以テ他ノ諸税ノ缺點ヲ補充シ彼ノ間接租税トノ比較的ニ富者ニ輕クシテ貧者ニ重キヲ平準スル所ノ一種ノ補充的及ヒ豫備的ノ租税ト爲スヘシ之ニ反シテ戰爭其他國家已ムヲ得サル必要ニ際シテハ其税率ヲ高クシテ以テ國費ノ増加ヲ充實スルモ收テ不可ナキノミナラス實ニ當然ノ事トス

「レオンボリー」氏ハ右ニ述ヘタルト同一ノ理由ニ因リ取得税カ補充的租税ト稱シ平時ニ於テハ其税率ハ最も高クトモ富者ノ收入五分乃至七分ヨリ多カルヘカラスト云ヒ「スタイン」氏ハ曰ク「所得税ハ他ノ直接税ノ課セラレサル收入ニノミ課スヘシ又他ノ確定租税ト異ニシテ毎年議會ノ協賛ヲ要スヘシ」ト「ホフマン」

氏ノ如キハ徹頭徹尾取得税ニ反對セリ  
 所得税ハ諸種ノ租税中彈力性ノ最モ多キ租税ナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ其増  
 減ノ最モ自由ナルモノナリ是レ之ヲ豫備的租税ト爲スニ最モ適當ナル所以ナ  
 リ然ルニ若シ平常事ナキ日ニ於テ所得税ヲ以テ國家ノ主タル收入源ト爲シ加  
 フルニ行政上又ハ宗教上ノ協同團體ニ於テ諸種ノ附加税ヲ之ニ附帶セシムル  
 ハ即チ一朝國家事有ルニ際シテ貴重ナル豫備ヲ失ハシムルモノナリ

英國ニ於テハ三回所得税ヲ賦課シタリ其第一回ハ千七百九十八年ヨリ千八百  
 二年マテ第二回ハ千八百三年ヨリ千八百十六年マテ第三回ハ千八百四十八年  
 以來今日ニ至ルモノ是ナリ千七百九十八年ニ始メテ所得税ヲ起シタルハ有名  
 ナル少年宰相ピット氏ニシテ彼ノ「ナポレオン」第一世ノ戰爭中其軍費ニ充テンカ  
 爲メニ之ヲ奢侈税ノ附加税トシテ課シタリ其意蓋シ中等以上ノ豊裕ナル者ニ  
 賦課スルニ在リキ故ニ毎年六十磅以上ノ收入アル者ノミ之ヲ負擔シ而シテ其  
 税率ハ六十磅乃至六十五磅ハ百二十ノ一ヲ課シ漸次階級ヲ設ケテ其税率ヲ増  
 加シ二百磅ニ對スル一割ヲ最高率ト爲セリ又其徵收方法ハ専ラ義務者ノ申告

カ單ニ報酬ヲ得ンカ爲メニ危險ヲ冒シテ賭事ヲ試ミタル一種ノ射倖契約ニ外  
 ナラス或ハ又乙カ甲ノ利益ノ爲メニ殆ト恩惠的ニ其損害ヲ賠償セントスル單  
 純ナル好意ノ約束ニ過キサルヘシ故ニ保險契約ノ定義ニハ此事ヲ明示スルノ  
 必要アリ故ニ保險契約トハ

當事者ノ一方カ報酬ヲ受クル代リニ他ノ一方ニ不確定ニシテ且經濟的損害  
 ヲ惹起ス所ノ事故ノ一定期間内ニ於ケル發生ニ際シテ財產ヲ供出センコト  
 ヲ約スル所ノ獨立ノ合意ニシテ此契約ハ前者カ後者ノ多數ニ對シテ約諾シ  
 若クハ約諾スヘキ所ノモノナリ

#### 第四章 保險契約ノ性質

保險契約ノ性質トハ保險契約カ法律學ノ上ニ於テ有スル所ノ性質ヲ謂フナリ  
 一、保險契約ハ偶成契約ナリ(又委運契約ト曰フ)

契約ハ締結ニ始マリ履行ニ終ル而シテ保險契約ノ履行ハ偶然ノ事故ニ屬  
 シテ時期ニ付テハ不定ニシテ實行ニ付テハ不測ナリ故ニ學者ハ稱シテ偶成  
 契約ト曰フ時期ノ不定若クハ發生ノ不測ハ事故カ運命ニ基クカ故ニシテ保

險契約ノ履行ハ一ニ運命ニ依頼セリト云フ點ヨリ又委運契約ト稱セリ而シテ運命ニ二アリ一ヲ善運ト曰ヒ他ノ一ヲ惡運ト曰フ保險契約ノ目的トスル所ハ善運ニ非スシテ惡運ナリ茲ニ保險契約ト同シク運命ニ依頼セル契約アリ賭事即チ是ナリ賭博契約ノ履行ハ運ニ因リテ行ハルハモノニシテ此點ニ於テ委運契約ト謂フコトヲ得然レトモ通常委運契約ト云ヘハ保險契約ヲ指シテ賭博ニ容レサルカ如シ而シテ賭博ハ善運ヲ目的トスル所業ニシテ此點ニ於テ保險契約ト異ナレリ

## 二、保險契約ハ賠償契約ナリ

保險契約ハ損害ノ賠償ヲ主眼トス故ニ損害ナキ所ニ保險契約ナシ例ヘハ右ノ火災保險或ハ水害保險ト云フカ如シ保險契約カ賠償契約ナルコトハ古來異論ナク認メラレタルモノナレトモ近來ニ至リ保險契約ノ或モノハ賠償契約ニ非ストシ單純ナル支拂ノ契約ナリトセラル、事アリ予ハ其眞意ヲ解セスト雖モ想フニ保險契約ニ損害ヲ賠償スルニ非サル種類ノ契約アリ例ヘハ生命保險ノ如キ人ノ死亡ハ損害(金錢上)ニ非ス又疾病保險ニ於ケル疾病ハ

損害ニ非ス是等ニ對シテ保險金ヲ支拂フハ損害ノ賠償ニ非スシテ條件ニ際會シテ支拂ヲ爲ス約束ナリト云フカ如シ此說ハ獨逸ニ始マリ近頃米國ヘモ傳播セリ我國ニ於テモ之ヲ採用スルノ傾向熾シナラントス若シ此ノ如キ說ヲ認ムルナラハ前章ニ述タル保險契約ノ定義ハ直チニ破壞セラレヘキモノニシテ予ノ大ニ悲シム所ナリ何トナレハ生命保險ニ於ケル死亡、疾病、保險ニ於ケル罹病等ハ明カニ損害ノ原因タリ得ルモノニシテ又明カニ金錢ニ見積リ得ヘシ例ヘハ他ノ過失ニ因リテ身体ノ一部分ヲ損傷セラレタルトキハ吾人ハ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルニ非スヤ死亡ニ於テモ亦然リ何カ故ニ此損害ノ賠償ヲ認メテ生命保險ニ於ケル損害賠償ヲ認メサルヤ又實損ヲ認メ難シト云フ說アラシカ縱合假損ニセヨ金錢ヲ以テ代ヘ得ヘキモノナラハ損害賠償ノ契約ト謂ツテ可ナリト信ス

## 三、保險契約ハ双務契約ナリ

保險契約ハ當事者ノ双方ニ或義務ヲ發生セシメ一方ノ義務ハ他ノ權利タリ他ノ權利ハ一方ノ義務タリ即チ甲ハ保險金支拂ノ義務ヲ負ヒ乙ハ保險料支

拂ノ義務ヲ負フ而シテ一方ノ義務ノ怠リハ他ノ義務ヲシテ果スニ及ハサラシム故ニ保險契約ハ双務契約ナリ

#### 四、保險契約ハ有償契約ナリ

保險契約ノ價值ハ保險者カ損害填補ノ責ニ任シ損害ノ發生ニ當リテ保險金ヲ支拂フノ保證力ニ在リ而シテ之ニ對シテ保險料ト稱スル報酬ヲ受ルモノニシテ此點ニ於テ有償契約ノ一種類タリ

#### 五、條件附ノ契約ナリ

保險契約ハ條件ヲ以テ締結セラレ存在シ且履行セラル、點ヨリシテ條件附契約ト稱セラル例ヘハ契約ヲ締結スル前ニ被保險者ノ側ニ陳示ノ義務アリ即チ契約ニ必要ナル事項ヲ陳述セサルヘカラス而シテ契約ハ此事項ヲ眞實トシテ締結セラル、カ故ニ此事項ハ條件ト謂フコトヲ得又保險契約成立ニ先チテ保險料ノ決定ニ錯誤ナキコトヲ條件トスルカ如シ又保險金支拂ノ場合ヲ限リ或一定シタル危險ノ發生ニ非サレハ賠償ヲ爲サス例ヘハ共同海損ニ對シテ賠償ノ特約ヲ結ハサル條件ヲ設タルカ如キ又或一定ノ場所ニ於ケ

ル損害ニ對シテノミ賠償ヲ爲スコトヲ約シ得ルカ如キハ條件附ノ契約ト謂フコトヲ得

#### 六、對人契約ナリ

保險契約ハ其如何ナル種類ナルヤヲ問ハス物ニ對スル契約ニ非スシテ人ニ對シテ成立スルモノナリ其意ハ保險セラレタル物件若クハ人身ヲ修補スルコトヲ必要トスルニ非スシテ契約者ニ對シテ金錢上ノ義務ヲ果セハ足レリ即チ火災保險ニ於テ受取タル保險金ヲ燒ケタル家屋ノ新築ニ投セスシテ遊蕩ニ費スモ又他ノ方法ニ使用スルモ保險契約ノ効力ニ影響セヌ又生命保險ニ於テ保險契約ヲ對人契約ニ非ストセハ身體其物ヲ新造セサルヘカラサルノ不理ヲ來タスヘシ

#### 七、隨意契約ナリ

保險契約ハ別ニ形式ヲ要セス隨意ノ方法ニ依リテ締結スルコトヲ得是レ形式的ニ隨意契約タル所以ニシテ又契約ノ包容ニ於テモ當事者隨意ニ之ヲ決定スルコトヲ得勿論隨意ニ約束スル所ノ條件ハ法律ニ違反スルモノタラサ

ルヘキモノニシテ例ヘハ火災保險ニ於テ自火ヲ賠償セズ滅鐘ノ破裂ヲ賠償セズ又ハ雷火若クハ地震ニ起因セル火災ハ賠償セスト云フカ如キ種々ノ條件ヲ當事者間ニ於テ隨意ニ決定スルコトハ毫モ差支ナシ但保險金受取人ヲ(生命保險親族以外ニ定ムルト云フカ如キ約束ハ我商法ニ依レハ公安ニ反スル約束ナルカ故ニ此ノ如キ契約ハ無効ナリトセサルヘカラス

#### 八 諾成契約ナリ

保險契約ハ當事者ノ台意アルト同時ニ成立スルモノニシテ通常習慣トシテ行ハル、所ノ第一回保險料拂込ノ事實ハ敢テ契約成立ノ要件ニ非ス

### 第三節 保險契約ノ要素

保險契約ノ要素ハ第一被保險利益第二保險料第三危險第四期間是ナリ

#### 第一款 被保險利益

保險契約ノ目的ハ被保險者ノ有スル財産上ノ利益ヲ保護スルニ在リ此利益ヲ被保險利益ト稱ス即チ甲カ其所有スル所ノ家屋ニ付テハ財産上ノ利益ヲ有スルコト勿論ニシテ縱令所有セストモ占有スル場合ト雖モ其占有スル關係ノ限

度ニ於テ或範圍ノ利益ヲ有スルト謂フヘク或ハ他人ヨリ寄託ヲ受タル物品ニ付テハ縱令利益ヲ有セストモ其物カ自己ノ手中ニ於テ損傷スレハ損害ヲ負擔セサルヘカラサルカ故ニ受託物ニ付テハ明カニ利害ノ關係ヲ有スト謂フヘシ此利害ノ關係ハ即チ財産上ノ利益ヲ有スト謂フヘキモノナリ故ニ物ノ所有着占有者受託者等ハ其物ニ付テ財産上ノ利益ヲ有スル者ニシテ其利益ハ保險契約ノ目的ト爲スコトヲ得ル處ノモノナリ故ニ之ヲ被保險利益ト稱ス又人類ニ於テモ親ハ子ノ身體ニ付テ財産上ノ利害關係ヲ有シ妻ハ夫ノ身體ニ付テ其他親族互ニ財産上ノ利益ヲ有スルコトハ敢テ深遠ナル理由ヲ以テ説明セサルモ明カニシテ民法ニ於テ親族互ニ養料ヲ給スルノ義務ヲ規定セルカ如キヲ見テモ互ニ金錢上ノ利益ヲ有スルコトヲ想像スルヲ得ヘシ而シテ此金錢上ノ利益ハ保險ニ付セラルヘキ利益ニシテ又被保險利益ト謂フコトヲ得

被保險利益ニ付テハ歐米各國ノ法律ニ於テ頗ル精密ナル規定アリ英國ノ賭博條例等ニハ一々其例ヲ舉ケテ嚴重ナル被保險利益ヲ定メタリ例ヘハ質權者ハ質物ニ付テ其質物カ未タ執行ノ手續ヲ經サル間ニハ被保險利益ヲ有セサレト

モ既ニ執行セラレタル後ニハ被保險利益ヲ有スト定メ或ハ受託者宿屋持合等ノ主人カ其客ノ品物ニ付テ被保險利益ヲ有スル場合等ヲ規定セルカ如シ又英國ニ於テ妻ハ夫ノ身體ニ付テ被保險利益ヲ有スレトモ夫ハ妻ノ身體ニ付テ被保險利益ヲ有セス子ハ親ノ生命ニ付テ被保險利益ヲ有スレトモ親ハ幼者ノ生命ニ付テ被保險利益ヲ有セス又縱令有スルモ年齢ニ由テ差異ヲ設ケタルカ如キハ被保險利益ニ付テ考察ヲ運シタルノ結果ナリ我改正商法ニ於テハ其第三百八十五條ニ保險契約ハ金錢ニ見積リ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ト云ヘル單純ナル規定ヲ設ケル外一モ被保險利益ニ付テ定ムル所ナシ故ニ實際ノ場合ニ臨ミテ疑義ヲ生スルコト少ナカラスト考フ况ヤ此規定ハ損害保險ノ規定ニシテ生命保險ニ於テ見ルコトヲ得ス又其他ノ保險ニ準用スルコトヲモ定メラレサルカ故ニ單ニ損害保險ノ被保險利益ノ一解釋ト見ラレ、ノ外一般保險契約ノ上ニ頗ル不満足ナル感ヲ起サシム

保險契約ハ被保險利益ヲ保護シ其損傷消滅ヲ填補恢復スルノ外ニ出ツルコト能ハサルモノナルカ故ニ保險者ハ被保險利益ノ價額以外ニ保險金額ヲ契約シ又

ハ賠償ヲ爲スコトヲ得ス商法第三百八十六條ニ保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トストアリ是レ即チ被保險利益以外ノ契約ヲ認メサルノ規定ニシテ元來此ノ如キ契約ハ公安ニ反スル點ヨリ全然無効ト爲スヲ當然トスト雖モ便宜上超過ノ部分ニ付テノミ無効ト看做シテ有益無害ノ方法ヲ許セルナリ保險金額カ保險價額ニ超過シタル場合ハ特ニ是ヲ超過保險ト稱ス此場合ハ契約ノ締結ニ際シテ起ル所ノモノナレトモ契約ノ履行ニ亘リテ保險者カ保險價額以上ノ賠償ヲ爲ス場合ナキヲ保セス此ノ如キ場合ニハ既往ニ遡リテ契約ヲ無効トスルノ必要アリト思惟スレトモ我商法ニハ其規定ナシ

同一ノ目的ニ付キ數個ノ保險契約成立シ一ノ被保險利益ニ對シテ數多ノ保護者アル場合アリ是ヲ重複保險ト稱ス重複保險ニ就テハ左ノ數則ニ從フヘシ

一、重複保險ノ爲メニ總保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ超過シタル部分ハ無効タルコト勿論ナリ

二、重複保險カ同時ニ成立シタル場合ニハ各保險者ノ賠償スヘキ金額ハ各自ノ



保險金額ト總保險金額ノ割合ヲ算用シテ保險價額ヲ分償スルモノトス但同日ニ締結シタル契約ハ同時ニ爲シタルモノト看做ス(第三八七條)

三重複保險カ時ヲ異ニシテ締結セラレタル場合ハ先ノ保險者先テ損害ヲ負擔シテ保險價額ヲ充タシタル場合ニハ後ノ保險者ハ賠償ノ責ヲ免ル、モノニシテ此場合ニハ後ノ保險者ハ單ニ前ノ保險者ノ豫備タル如キ狀況ヲ呈ス若シ又前ノ保險者ノ賠償スル所保險價額ニ充タサル場合ハ後ノ保險者其不足分ヲ負擔ス

重複保險ヲ利用シテ被保險者カ賭博的行爲ヲ行ハントスルヲ防ク爲メニハ重複保險ノ事實ヲ保險者ニ一々通知セシムルノ義務ヲ被保險者ニ強制スルノ必要アリ然ルニ我商法ニ於テハ其規定ヲ缺ケリ勿論重複保險ニ於テ保險金額カ保險價額ニ超過シタル場合ハ超過保險ノ原則ニ依リ超過分ハ無効ナルコト商法ノ規定ニ依ルモ明カナレトモ重複保險ニ於ケル超過ノ事實ヲ明カニスルニハ被保險者ニ通知ノ義務ヲ負ハシメサレハ各保險者之ヲ發見スルテ得サルヲ以テ當然トセサルヘカラス故ニ實際ニ於テハ保險者カ契約ノ約款ニ於テ重複

保險タル事實ヲ告ケサル契約ハ無効ナリト規定シ之ニ依テ契約ヲ締結ス

一ノ被保險利益ニ付テ數個ノ保險契約カ重複シテ締結セラル、點ニ於テ重複保險ニ似タルハ再保險ナリ再保險ハ又戻リ保險トモ曰フ既ニ説明スルカ如ク一ノ利益ニ付テ保護ノ責ニ任シタル保險者カ其責任即チ自己ノ被ルコトアルヘキ損害ヲ他ノ保險者ニ保護セシメントスルモノニシテ保險ノ目的ハ常ニ費用タリ即チ原保險ノ目的カ或ハ物件ト人トノ關係タリ或ハ人ト人トノ關係タル等ノ相違アルニモ拘ハラス再保險ニ於ケル被保險利益ハ常ニ無形ナル債權ノ關係タリ再保險ノ目的タル利益ノ包含ハ必スシモ原契約ト同一ナラス例ヘハ保險金額ノ差異アルコトアリ即チ原契約ノ金額ハ千圓ナルモ其中五百圓ヲ再保險ニ付スルコトアリ又例ヘハ危險ノ一部ヲ條件トシテ付スルコトアリ即チ火災保險ニ於テ原契約ニハ總テノ種類ノ火災ニ對スル賠償ヲ約スルモ再保險ニ於テハ單ニ類焼ノ危險ヲ約シ又ハ單ニ自火ノ危險ヲ約スルカ如シ又生命保險ニ於テ原保險ハ養老保險ナルモ再保險ハ定期保險ナルヲ妨ケサルカ如シ

再保險ハ總テ原保險ヲ基礎トスルカ故ニ原保險カ無効ナル場合ハ再保險モ亦無効ナリ

再保險ハ保險ノ進歩シタル外國ニ於テハ殆ト如何ナル保險ノ種類ニモ應用セラルト雖モ最モ盛ナルハ海上火災ノ保險ニ在リ再保險會社ナルモノアリテ單ニ各會社ノ再保險ノミヲ契約スルニ及ヘリ再保險ノ保險料ハ原保險ト契約ノ包含ノ同一ナリトシテ通常原保險ニ於ケル保險料ト同一ナリトス何トナレハ再保險ハ自己ノ花主ヲ他ニ分與スルト云フ趣意ヨリハ自己ノ危險ヲ他ニ負擔セシムルト云フ趣意ニ出タルモノニシテ隨テ原保險料ヨリハ寧ロ高キ保險料ヲ拂フテ可ナル場合アリ然レトモ再保險ハ通常保險者間ノ一致協力及ヒ德義等ヲ基トシテ行ハルハモノナルカ故ニ或場合ニハ同一ナル保險料ヨリハ寧ロ廉ニ引受ルコトモアリ

重複保險ニ似テ而モ或ル相違ノ點ヲ有スルカ故ニ保險社會ノ習慣上別ノ言語ヲ以テ表ハサル、所ノ共同保險ナルモノアリ兩者ノ差異ハ前者ハ總保險金額カ保險價額ヲ超過スル場合ヲ云ヒ後者ハ保險者カ保險價額ヲ共同分擔スル

十貫文居座ニ三十貫文總船頭ニ三十貫文通事ニ二十貫文目聽ニ二十貫文船頭ニ三十貫文船方ニ十貫文ヲ給シタリ船賃ト云フモ今日所謂運送賃ト異リ畢竟航海ノ費用ニ過キス今日ニ於テハ海上運送營業者タル特種ノ補助ノ商人ヲ生シ運送人ハ運送ノミニ從事シ荷主タル商人トハ之ヲ分離スト雖モ當時ニアリテハ荷主即チ船舶所有者ニシテ海商ノ組織上未タ荷主ト船主運送人トヲ分科スルニ至ラサルヲ見ルヘシ何トナレハ商人自ラ類船ヲ發シ又ハ進貢船ニ乗組ミ居ルヲ見レハナリ然レトモ船舶運轉ノ勞務ニ服スル專門の技術者タル總船頭船頭船方等今日所謂船員ノ分科アリシヲ見ルヘシ然レトモ是等ノ總船頭船頭等ハ今日ノ船長ノ如キ法律行爲ヲ爲スヘキ廣キ權限并ニ責任ヲ有セザリシヤ疑ナシ何トナレハ船内ニ正使又ハ商人自ラ同乗シテ荷物ニ對スル處置ヲ爲シタレハナリ例ヘハ天文八年大内氏ノ將軍ノ命ヲ奉シ船三艘ヲ遣ハスヤ之ニ乗組メル商人ハ二百九十七人アリタリ是レ皆積荷所有者ナリ

天文十六年大内氏僧周良ヲ唐ニ遣ハスヤ渡唐船法度二十八條ヲ發布シ鬪爭ヲ戒メ飲酒博奕ヲ禁シ品行ヲ謹マシメタリ是レ今日ノ所謂船員法ノ一端ニシテ

専ラ船内ノ紀律ヲ保ツ爲メニ發シタルモノナリ  
 文祿元年豊臣秀吉ハ南海渡航ノ商船ニ朱印ヲ捺セシ航海免狀ヲ賜フノ制ヲ設  
 ケ其數九艘アリ之ヲ御朱印船ト稱ス徳川家康モ亦其制ヲ襲ヒ益々之ヲ擴張シ  
 朱印ヲ賜ヒタリ當時朱印ノ事ヲ管理シタルハ豐光寺圓光寺金地院ノ三寺ニシ  
 テ之カ異國渡海御朱印帳ナルモノニ依ルニ慶長九年ヨリ元和二年ニ至ル十三  
 ケ年間ニ朱印ヲ賜リタルハ百九十八艘ノ多キニ達シ渡航ノ國ハ安南占城呂宋  
 暹羅東京太泥順化東埔塞迦知安密西耶斐萊田彈摩利迦交趾毘那宇廣南高砂摩  
 陵西洋信州ノ二十ヶ國ニ及ヘリ見ルヘシ遠洋航海ノ非常ニ進歩シタルコトヲ  
 第二期 右ノ如ク徳川氏ノ初年ニ至ルマテハ我國ノ航海業ハ駸々トシテ長尾  
 ノ進歩ヲナセシニ慶長ノ末年ニ至リ徳川氏顯覆ノ隱謀露見スルニ及ヒ異教徒  
 ノ進放ノ必要上俄カニ鎖港海禁ノ主義ヲ取ルニ至リ爾來維持シ來レル海上ノ高  
 權ハ殆ント地ニ墜ナス即チ寛永十一年ヲ以テ左ノ三個條ノ禁令ヲ長崎ニ揭示  
 シ之ヲ犯ス者ハ嚴刑ニ處セラレタリ一伴天連日本ニ乗渡ル事二日本ノ武具異  
 國ヘ持渡ル事三奉書船ノ外日本人外國ヘ乗渡ル事附日本住居ノ異國人同前ノ

事はナリ斯ル禁制モ其効無カリシト見ヘ越テ二年斷然海禁令ノ發布アリ曰ク  
 「一異國ヘ日本船遺儀堅停止ノ事二日本人異國ヘ不可遣候條忍候テ乗渡候者有  
 之ニ於テハ其身ハ死罪其船并ニ船主トモ留置可言上事三異國ヘ渡リ住宅仕日  
 本人來候ハ、死罪可申付事」下加之大船製造禁止ノ令アリ以テ國內五百石以上  
 ノ船船ハ皆之ヲ沒收シ更ニ之カ製造ヲ禁シ又二桅以上ヲ廢止シテ悉ク一桅船  
 トナシ且ツ船底ノ龍骨ヲ廢シテ脆弱震盪全ク遠洋航海ニ堪ユヘカラサル地廻  
 船ト爲シタリ是レ實ニ三代將軍家光ノ治世寛永十三年五月皇紀二二九六年西  
 曆一六三六年ノ事ナリトス此ノ如ク外航ヲ禁シ造船術ニ制限ヲ加ヘタルノ結  
 果ハ此期ニ入りテ船舶ノ難破ニ罹ルモノ非常ニ其數ヲ増セリ蓋シ船員等ハ冲  
 乘スルコトナク唯見馴レタル山々ヲ目標トシテ岸ニ沿フテ航海スルカ故ニ颯  
 風ハ土地ヨリ起ルヲ常トスルモノニシテ其難ニ罹ルコト頗ル多シ又船員等ハ  
 幼年ヨリ單ニ地廻ノミニ馴ル、カ故ニ偶颯風ニ逢ヒ大洋ニ吹流サル、トキハ  
 方位ヲ辨セス忽チ心魂ヲ失ヒ神佛ニ祈誓スルノ外爲ス所ヲ知ラズト云フ船員  
 ノ技術ノ退歩セルコト察スルニ餘リアリ又我國現今ノ和船ニハ龍骨無キヲ常

トスル所以ノモノハ恐ラクハ右家光ノ時ニ造船術ニ干渉シ龍骨ヲ廢スルコトヲ命シタル結果其遺制トシテ現今ニ至ルマテ造船術上ニ影響ヲ及ホシタルニ因ルニ非サルカ予ハ造船學ノ専門家ニ非ルカ故ニ斯ル問題ニ對シテ直チニ斷定ヲ與フルコト能ハサルモ若シ予ノ想像ヲ以テ當レリトスレハ凡ソ法律ナルモノカ天下後世ニ影響ヲ與フルコトノ甚シキ一例トシテ茲ニ掲ケント欲スルナリ

徳川時代ニ於テ商船ノ往來最モ頻繁ナリシハ大坂江戸間ニシテ此間ヲ往來シテ航海ノ權ヲ占有セシハ菱垣廻船樽廻船及ヒ番船ナリトス菱垣廻船ハ元和五年泉州堺ノ商人紀州富田浦ニ於テ二百五十五石積ノ一船ヲ借リ入レ之ニ大阪ヨリ木綿油綿酒酢等ノ商品ヲ搭載シテ江戸ニ運送シタルニ始マル其船外圍ニ菱形ノ垣ヲ裝フカ故ニ此名アリ其後大阪西宮兵庫等ノ商人ハ或ハ船舶ヲ雇入レ或ハ新ニ船舶ヲ製造シ熾ニ之カ廻船ヲ發シタリ然レトモ當初未タ江戸ニ組合モナク海損ノ決算精シカラス船員ノ曲事等頗ル多カリシト云フ(其事實并ニ幕府カ之カ爲メニ廻船法規ヲ發セシコトハ後ニ之ヲ述フヘ

シ)仍テ元祿七年江戸荷主川上伊兵衛氏發起トナリ荷主ヲ十組ノ組合ニ分チ又大阪ニモ組合ヲ置キ以テ船舶ノ管理ヲ爲シタリ樽廻船トハ酒荷物ヲ他ノ荷物ヨリ分離シテ之ヲ別船ニ仕立テタル故ニ此稱アリ其始メハ酒類モ他ノ荷物ト同一ニ菱垣船ニ積載シテ之ヲ運送セシモ難破船アリシ場合ニ其海損ノ計算ニ付屢爭論ヲ生シタルカ故ニ享保十五年酒荷ハ之ヲ別船ニスルコトニ定メタルナリ番船ニハ菱垣番船樽番船ノ二種アリテ其性質ハ各菱垣船又ハ樽船ト異ナラスト雖モ唯新荷例ヘハ新綿若クハ新酒等ヲ載スルモノニシテ船頭等各競フテ第一番ニ到着センコトヲ期セリ仍テ此名アリ蓋シ一番入ノ船頭ニハ賞品ヲ與フルヲ例トシ其船頭ハ將來荷主ノ愛顧ト航海ノ聲譽トヲ得且ツ翌年番船ヲ出ス時拔仕立ト稱シ他ニ先ンシテ荷物ヲ船積ミシ出帆シ得ルノ利益アリタルナリ

此等ノ廻船ノ法律上ノ性質ヲ考フルニ所謂歩入船ニシテ今日ノ所謂共有船舶ナリ即チ各種ノ商品例ヘハ綿油紙藥鹽酒等ノ荷主カ各組合ヲ結ヒ其組合ニ於テ船舶ヲ所有シ諸組合中ニ大行事ヲ置キ船舶ヲ管理シ且ツ重立タル荷主ヨ

リ船手極印元ナルモノヲ選ヒ菱垣船タルコトヲ表スル燒印ヲ押シ船舶ノ往返ノ度毎ニ船足船具ヲ検査セシメタリ而シテ之ニ搭載スル荷物ハ大阪及ヒ江戸ノ各組合ノ商品ト幕府及ヒ諸藩ノ荷物トニ限リ他ノ商品又ハ船員等自ラ商品ノ買積ミヲ爲スコトヲ得ザリシナリ由是觀之此等ノ廻船タルヤ畢竟荷主カ速合シテ船舶ヲ共有シ自己ノ船舶ニテ自己ノ荷物ヲ運送セシニ過キサルナリ故ニ汎ク貨物ノ運送ノミヲ以テ營業トスル今日所謂運送船ニ非リシコトヲ知ルヘシ彼ノ幕府及ヒ諸藩ノ荷物ニ限リ之ヲ運送シタルハ是レ上ニ對スル義務トシテ強制的ニ載セシメラレタルモノニシテ決シテ運送賃ヲ取得スル目的ニ非サルナリ猶ホ今日ノ運送會社カ郵便物ヲ必ス運送セサルヘカラサル義務アルト異ナラサルナリ而シテ當時既ニ船問屋ナルモノ之レアリシト雖モ是レ唯船舶積荷并ニ船頭等ニ付テノ周旋ヲ爲スヲ以テ主タル職トシ船問屋自身カ船舶ヲ所有シ汎ク世人ノ依託ニ應シテ貨物運送ニ從事スル運送營業者ニ非ルモノ、如シ尤モ當時ニアリテハ商業ノ株式ナルモノ之レアリ以テ撰リニ何人モ商業ヲ營ムコトヲ得ス隨テ商人若クハ問屋ノ數モ尠ク汎ク一般ニ世人カ商品ヲ

一地ヨリ他ノ地ニ送ルノ需要モ亦極メテ尠クシテ運送ノミヲ營業トスル一種獨立ノ補助的商人ヲ必要トセザリシナルヘシ反言スレハ今日ノ如ク四民平等ニシテ商業ノ自由モ廣ク認メラレ商人ノ數モ増加シ商業交通ノ範圍モ極メテ擴張シタル時代ニ於テコソ運送専門ノ營業者ヲ必要トスルナレ古ノ如ク唯商業株ヲ有スル者ノミ商業ニ從事スルコトヲ得商業者ノ範圍極メテ狭少ナル時代ニアリテハ其商業者カ組合ヲ結ヒ自ラ船舶ヲ所有シテ自己ノ貨物ヲ運送シタルハ至當ノ順序ト云フヘシ故ニ吾人ハ當時ニ在リテ運送専門ノ營業者カ未タ十分ニ其發達ヲ爲サ、リシヲ見テ決シテ之ヲ怪マサルナリ然レトモ當時既ニ船問屋若クハ各種商品ノ問屋ノ制度稍々發達シタルカ故ニ此期ニ在リテハ荷主自身カ積荷ト共ニ船舶ニ同乗シテ積荷ノ世話ヲ爲スノ不便無キニ至レルヲ見ルヘシ是レ實ニ前期ニ比シテ一段ノ進歩ト云フヘシ然リ而シテ前記ノ船問屋カ漸次ニ進歩發達シテ自ラ船舶ヲ所有シテ汎ク貨物運送ノ需要ニ應シ遂ニ今日ノ如ク海上運送専門ノ營業者ニ轉化スルニ至リタルコトハ固ヨリ言フヲ待タサル所ナリ尤モ今日ニ於テモ船問屋中自ラ運送契約ノ責ニ任スル者ト單

ニ回漕ノ周旋取次ヲ爲スニ過キタル者トノ二種アリ  
 又右ノ廻船ニ於ケル海損ノ處分、船員ノ曲事等ニ付テハ前記ノ江戸荷主川上伊  
 兵衛ナル者カ正徳五年末七月錄セシ所ノ日記ハ能ク其事情ヲ悉クスカ故ニ參  
 考ノ爲メ茲ニ掲ク

(前略)上方より諸商賣の品々往古より積合運送致來候といへども其頭迄は諸  
 商賣の間屋も少く誰在て難船有之時に吟味致候荷主もなければ船問屋の心  
 に任せて支配不致候故諸事の勘定何かと共に役々不埒に罷成り就中貞享三  
 丙寅年小松屋仲右衛門と申す船造の海上を無事に乘下り候處船頭私欲の爲  
 に相州沖にて難風に遭ひ破船致候由にて船問屋利倉屋三郎兵衛方へ申來り  
 候然る處斧を以て遮と船底を打割り積合の荷物過半盜取候由此際粗は相知  
 候故積合荷主此所彼所々相談有之候得共諸商賣買問屋中互に手輕の着合交  
 際も無之候得は相談の世話も無之候故自然と此沙汰相止み等閑に相濟み依  
 之船手役不行跡に相成り既に元祿五壬申年迄は諸廻船共に荷打投資の意破  
 船水船等の難多分有之候其節は船頭水主皆浦方港々の者と馴合ひ荷物過半

盜取り配分致候体剩へ殘荷も悉く中味抜き取り候て丸荷物と無之別而金高  
 の荷物は猶ほ以て捨たり候体殊更難風に不逢船にも折々荷打の体に方便を  
 取り拵へ荷物紛失多く積合の荷主數度の損金に逼り諸商賣荷物運送も鈍く  
 相成候に付元祿六癸酉に至り拙者存入候ハ如此船手根に相成候てハ御當地  
 の諸商人諸職人共に家業の手元拂底に罷成候御當地江戸ハ不及申國々迄も  
 貴賤共不自由難儀ならんと推し計り元祿七壬戌年橋町惣助と申者の方に  
 て始めて參會を催はし云々

右ニ依り船員等ノ取締極メテ不紀律ニシテ船員等カ故意ニ荷物ヲ盜取リ又ハ  
 船泊ヲ毀タルコトアルヲ知ルヘシ面シテ船問屋ナル者ハ十分此等ヲ吟味スル  
 責任アルモ管ニ之ヲ看過スルノミナラス却テ船員ト馴合ヒ其惡事ヲ隱蔽スル  
 ノ恐アリ以テ當時ノ船問屋ノ責任輕クシテ今日ノ運送人カ荷物ヲ受取リテヨ  
 リ引渡ニ至ルマテ之カ保管ニ付テ殆ント一切ノ責任ヲ負フモノハ比ニ非ス換  
 言スレハ船問屋ハ運送人タルノ責任ヲ負ハス運送契約ノ當事者ニ非サリシヲ  
 見ルヘシ即チ積合荷主自ラ荷物ノ危險ヲ負擔シ船問屋ヲ介シテ船泊ノ準備并

ニ艦裝ヲナシ且ツ船員ヲ雇入レテ荷物ヲ運送セシムル仕組ナリシヲ知ルヘシ  
而シテ右ノ弊害ヲ濟フ爲メニ川上氏自ラ卒先シテ荷主ノ組合ヲ作り廻船ノ管  
理ヲナシ若シ荷打破船水船等ノ海損アリシトキ荷主組合ノ行事立會フテ之カ  
勘定ヲナシ船問屋ヲシテ一切之カ勘定ニ關係セシメタルコトニ決セレメタ  
リ

幕府モ亦諸國ノ津々浦々ニ高札ヲ立テ廻船法規ヲ示メシ以テ廻船ヲ保護シ且  
ツ船員ノ紀律ヲ嚴ニセリ今其規定ノ實質ヲ見ルニ救援救助ノ報酬ニ付テハ船  
舶ノ破損シタルトキ近傍ノ浦ニ於テ荷物船具等ヲ取揚タル者ニハ浮荷物二十  
分一沈荷物十分一ヲ與フ但川船ハ浮荷物三十分一沈荷物二十分一トス又自然  
ノ漂流物并ニ船舶ニ付テハ之ヲ揚置キ半年ヲ過タルモ猶ホ荷主ノ出ルコトナ  
キ時ハ之ヲ取揚ケタル者ニ與ヘ期限經過ノ後ハ荷主出ルモ之ヲ返却スルニ及  
ハス又航海中ノ海損ニ付テハ到達港ニ於テ其地ノ代官手代庄屋立會ノ上検査  
ヲナシ船中ニ殘ル所ノ荷物船具等ノ分證文ヲ出テシム若シ船員等浦々ノ者ト  
共謀シ荷物ヲ盜取リ之ヲ投賣トセシモノ、如ク僞ルトキハ船員ハ勿論共謀者ヲ

罪科ニ處ス又船舶ノ發航ニ付テハ港内ニ久シク船舶ヲ繫留セシムル者アルト  
キハ其理由ヲ尋テ天候ノ宜シキヲ待チテ直チニ出帆セシム若シ毀損等ノ爲メ  
ニ直チニ出帆スルコト能ハサルモノニ付テハ其名稱ヲ尋テ近キハ其地頭代官  
遠キハ勘定奉行へ届出テシメタリ而シテ享保十六年ニ至リ又其規定ヲ一層密  
ニシ主トシテ今日所謂投賣ニ關スル規定ヲ設ケタリ即チ廻船ニシテ若シ海難  
ニ遭ヒ荷物ヲ投棄シ浦方ニ乘込ミタルトキハ其浦ノ役人立會ノ上殘荷ヲ其儘  
ニシテ之ニ繩張封印ヲ施シ問屋又ハ荷主ノ來ルマテ番人ヲ附セシム又船積荷  
物ノ出賣若クハ出買ヲ禁シ若シ之ヲ犯ストキハ當事者双方ニ重キ過料ヲ科シ  
且ツ荷物并ニ代金ヲ沒收シ荷物ハ之ヲ問屋ニ還附ス蓋シ積荷ノ員數ヲ減少シ  
又ハ換荷ノ詐僞ヲ行フコトヲ豫防シタルナリ又投賣若クハ破船ナリト僞稱シ  
荷物ヲ押領スルトキハ船頭及ヒ上乘ハ獄門ニ水主ハ入墨ノ上重敵ニ處ス又船  
舶未タ甚シク毀損モス投賣ノ必要ナキニ之ヲ行フトキハ船頭過料十貫文上乘  
三貫文ニ處ス又難風ニ遇ヒ投賣シタル殘荷ヲ盜取リ或ハ船頭ト共謀シテ浦證  
文ヲ僞書シ以テ分配ヲ受ケタル名主ハ其地ニテ獄門ニ又盜取タル荷物ヲ自己

ノ土蔵ニ預リ置キ配分ヲ受ケタル者ハ死罪ニ又船頭ニ宿ヲ貸シ彼ト共謀シテ村内ノ者ヲ勸メ配分ヲ取リタル者ハ遠島ニ又贖品ヲ運搬シテ配分ヲ取リタル者ハ重追放ニ處ス此ノ如ク其規定頗ル嚴ナルカ故ニ船員等ノ紀律ヲ保テ前述セル弊害ヲ大ニ除去スルニ至リタリト云フ

第三期 嘉永六年六月米艦浦賀ニ入りテヨリ内外ノ形勢ニ逼ラレテ幕府ハ遂ニ同年九月五百石以上ノ大船製造ノ禁ヲ解ケリ是レ寛永ノ禁ヲ距ルコト實ニ二百十八年ナリトス而シテ安政年間ニハ三梳式ノ西洋形帆船三艘ヲ製造シ又日ノ九ヲ以テ日本船舶ノ徽章ト定メ又文久元年六月二十二日ニハ更ニ令シテ大船舶製造購求及ヒ所持ノ事ヲ普ク四民ニ許シ且ツ國內到ル所ニ航海業ニ從事スルコトヲ得セシメ其未タ航海ニ慣レサル者ニハ水先案内者及ヒ水夫ヲ貸下クル旨ヲ達セリ又翌二年外國渡航ノ禁ヲ解ケリ而シテ元治元年ニハ橫須賀ニ造船所ヲ創始シ又朝野共ニ外國船舶ヲ購入スルコト頗ル多ク明治二年太政官ハ布告シテ考朽船舶ヲ買取ラサル爲メノ指圖ヲ與ヘ其翌三年ニハ遂ニ商船規則ヲ發布シ其中ニ和船ハ難破多キ故ニ洋式船舶ニ仕替スヘキコトノ訓示ヲ

與ヘタリ而シテ爾後船籍測定衝突豫防難破船員ノ取締等ニ關シテ行政的規定ノ發布アリシモノ枚舉ニ遑アラズ

菱垣船、樽船、猪牙船等ノ廻漕仕組ハ維新ノ際マテ繼續セリト雖モ維新ノ改革ニ依リ四民平等ノ權ヲ認メ商業ノ自由ヲ一般ニ認可シ商業ノ株式ナルモノ廢止セラレ從來ノ問屋組合ノ制モ解散セラレ商交通ノ範圍モ漸ク擴張シ隨テ從來ノ如ク船舶共有ハ仕組ヲ以テ多數共有者ノ商品ヲ運送スルノミニテハ社會ノ需要ヲ充スニ足ラス社會ノ進歩ハ一般ノ貨物運送ヲ以テ營業トスル專門ノ商人ヲ必要トスルニ至レリ然ルニ海上運送業ノ如キハ事頗ル危險ニ屬シ且ツ比較的ニ大資本ヲ要スルカ故ニ一私人ニシテ該事業ヲ廣ク營ムコトハ頗ル難シ故ニ船問屋ナル者船舶ヲ所有シテ運送營業ヲ開始スルモ僅カニ内海若クハ短距離ノ小航海ヲ爲スニ過キス稍々長距離ノ運送例ヘハ京坂間ノ運送若クハ遠洋航海ノ運送ニ至テハ一私人ノ之ヲ開始スルコト頗ル難シ然ルニ恰モ好シ速力極メテ敏捷ニシテ航海ニ最モ堪能ナル洋式船舶ハ益々輸入セラレ從前ノ制限及ヒ干渉ヲ離レテ造船術ノ上ニ非常ナル進歩ヲ來シ爲メニ船舶自體ニ非常ナ



ル改良ヲ施スコトヲ得タルト同時ニ外國ニ於ケル經濟思想ノ輸入ノ結果冒險  
 の大企業ヲ營ムニ至便ナル會社組織ヲ以テ海上運送業ヲ開始スルコトヲ明治  
 ノ極ク初年ニ於テ邦人カ知リ得タルハ我國航海業カ長足ノ進歩ヲ爲ス端緒ト  
 シテ實ニ至幸至福ナリシト云ハサルヲ得サルナリ故ニ予ハ各其特色ニヨリテ  
 命名スレハ徳川時代ヲ以テ船舶共有組織ノ運送時代トシ明治ノ時代ヲ以テ會  
 社組織ノ運送時代ト言ハント欲スルナリ

抑モ會社組織カ冒險的ノ大企業ヲ營ムニ適スルコトハ固ヨリ多言ヲ要セス然  
 ルニ明治ノ初年我國ノ爲政家カ不十分ナカラモ之ニ對スル智識ヲ有シ民政部  
 中ノ通商司ニ附屬シテ半官半民の三會社ヲ組織セリ是レ我國ニ於ケル會社  
 設立ノ濫觴ナリ即チ其一ハ爲換會社ニシテ今日ノ銀行事業ヲ營ミ他ノ一ハ開  
 商會社ニシテ紙砂糖油蠟木綿綿肥料等ノ商品ノ相場ヲ立テ現品ノ定期賣買ヲ  
 營メリ又他ノ一ハ即チ廻漕會社ニシテ貨物ノ運送ヲ業トセリ

抑モ廻漕會社ノ設立ハ明治二年三月ニシテ始メテ之ヲ組織シタルハ三井八郎  
 兵衛氏ノ手代吹田四郎兵衛氏ニシテ自ら其頭取ニ指名セレ東京靈岸島大坂中

ノ島ノ兩地ニ會社ヲ設置シ漁船ヲ以テ京坂間物品及ヒ旅客ノ運送ニ從事セリ  
 之ヨリ菱垣船樽船ニ依ル京坂間ノ交通ハ其跡ヲ收ムルニ至レリ蓋シ航海ノ速  
 カト云ヒ安全ト云ヒ和船ハ漁船ノ敵ニ非サレハナリ而シテ當時太政官ヨリ三  
 府及ヒ各藩ヘ左ノ如キ達アリ曰ク「今般東京靈岸島大坂中ノ島ノ兩地ヘ廻漕會  
 社ヲ設建シ京坂間諸荷物運送ノ便ヲ謀ル積荷ヲ爲テント欲スル者ハ該社ニ申出  
 運送ヲ相談スヘシ又乗船ヲ望ム者ハ該社ヘ申出相當ノ乘船費金ヲ仕拂便ヲ乞フ  
 ヘシ」ト(當時乗船旅客ナ稱)以テ該會社カ物品運送及ヒ旅客運送ノ二者ヲ取扱ヒ  
 レヲ知ルニ足ルヘシ而シテ該社使用ノ船舶ハ政府所有ノモノ及ヒ各藩所有ノ  
 モノニシテ之ヲ預リ入レテ以テ營業ヲナシタルナリ故ニ政府所有ノ船舶ニ對  
 シテハ物品及旅客ノ運送賃ノ一割ヲ手數料トシテ會社ニ取得シ其他石炭費仲  
 士人足費解船費船員ノ給料此船員ノ給料ハ豫メ一定額ヲ以テ船長ニ之ヲ請負  
 ハシメ船長隨意ニ海員ノ給料ヲ定メテ支拂ヒタリト云フ是レ後世船長ハ船籍  
 港内ニ在ル間ト雖モ海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ヲ有スト爲ス規定新商五  
 六六條第二項ヲ設タル沿革上ノ理由ノ一端ト云フヘキカ及ヒ食料費等ノ航海ニ

必要ナル諸現費ヲ控除シ殘リノ運送賃金ハ明細目録ヲ添ヘテ通商司ニ納メタ  
 リ又タ各番所有ノ船舶ニ對シテハ會社ノ手数料一割ト仲士人足解船費等ノ現  
 費ヲ控除シ明細目録ト共ニ殘運送賃金ヲ當該船長ニ交付セリト云フ仍テ船  
 長ハ又其中ヨリ船員ノ給料及ヒ食料ヲ控除シ之ヲ其藩ニ納メタルモノナルヘ  
 シ  
 而シテ當時會社船舶所有者者ト船員トノ關係ニ於テ積荷ノ滅失毀損セル場合ニ  
 於ケル第三者積荷所有者ニ對スル損害賠償支辨ニ關シ頗ル奇ナル慣習ヲ有セ  
 リ即チ會社ハ船員ノ給料ノ外ニ積荷運送賃金高ノ三朱ニ當ル金高ヲ船長ニ與  
 ヘ船長ハ之ニ依リテ積荷カ天災其他ノ不可抗力以外ノ原因例ヘハ濡傷紛失等  
 ニヨリテ滅失毀損シタルトキニ於ケル損害賠償ノ支拂額ヲ請負ヒシタルナリ  
 即チ會社ハ此以外ニ賠償金トシテ支出セザルナリ換言スレハ船長ハ運賃ノ三  
 朱ヲ以テ保險料トシテ受取り不可抗力以外ノ原因ニ基ク積荷ノ滅失又ハ毀損  
 ヲ保險シタルニ異ナラザルナリ故ニ船長モ亦豫メ京坂ノ兩地ニ一名宛ノ自己  
 ノ手代ヲ置キ船舶カ到達セシ場合ニ於テ積荷濡傷等ノ狀況ヲ檢査セシメ若シ

書ヲ必要トスルモノアリ有價證券ノ中ニハ或ハ物權的ノ効力ヲ生スルモノ  
 アリ例ヘハ倉荷證書ノ如シ或ハ債權的ノ効力ヲ生スルモノアリ又有價證券  
 ノ中ニハ指圖式ノ有價證券アリ記名式ノ有價證券アリ或ハ無記名式ノ有價  
 證券アリ

(二) 有價取得トハ報酬ヲ與ヘテ所有權ヲ取得スル意味ニシテ法律行為ニア  
 ラサル所ノ取得例ヘハ狩獵捕漁等ノ如ク天產物ヲ採取スル如キモノハ有價  
 取得ト謂フヲ得ス

(三) 他人ニ讓渡スノ意思ハ取得スル當時ニ於テ存在セザルヘカラス且其意  
 思ハ明示又ハ默示ニ表示セラレザルヘカラス取得ノ當時ニ讓渡ノ意思ナケ  
 レハ他日之ヲ讓渡スモ商行爲ト謂フヲ得ス讓渡ノ意思カ取得ノ當時ニ存セ  
 シトキハ縱令後日ニ其意思ヲ實行セザルモ尙ホ其商行爲タル性質ヲ失ハス

### 第二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ供給契約第二六三第三二

供給契約トハ他日他人ヨリ取得スルト云フ意思ヲ以テ動産又ハ有價證券ヲ  
 供給スル契約ニシテ投機的賣却ノ義ナリ而シテ第一ノ投機買入ノ商行爲ニ

在テハ取得スルコトカ先ニシテ讓渡スコトハ後ナリ此供給契約ニ於テハ讓渡シカ先ニシテ取得ハ後ナリ投機ノ買入ノ場合ニ在テハ讓渡ノ意思ヲ以テ是ヲ取得シタルモノナレトモ投機ノ賣却ノ場合ニハ取得スル意思ヲ以テ讓渡サントスルモノナリ此供給契約ノ條件ヲ分拆スレハ

一 供給契約ノ目的ハ動産又ハ有價證券ナラサルヘカラス  
 二 所有權ノ移轉ヲ目的トスル行爲ナルコトヲ要ス  
 三 供給者ハ他日他人ヨリ取得スルト云フ意思ヲ以テセサルヘカラス且此意思ハ供給ヲ約スル當時ニ於テ存在スルモノナラサルヘカラス

第一種ノ商行爲ニ於テハ取得ノ行爲カ先ニシテ之ヲ他人ニ讓渡ストキハ取得ノ際ニ存在セシ所ノ意思ヲ貫徹スルモノナリ第二種ノ商行爲ハ供給ヲ爲スノ約束カ前ニ成立シ之ヲ履行スルカ爲メニ他人ヨリ取得スルハ給付ヲ爲ス契約ヲ爲ス當時ニ存在セシ意思ヲ貫徹セシムルモノナリ即チ第二百六十三條ノ第一號ノ未段ト第二號ノ未段ニ掲ケタルモノナリ是ヲ以テ第一種ノ商行爲ニ於ケル讓渡及ヒ第二種ノ商行爲ニ於ケル給付ノ行爲ハ學者カ之ヲ

實行行爲或ハ履行行爲ト稱セリ

### 第三 取引所ニ於ケル取引第二六三條第三號

此取引ノ如何ナルモノナルカハ明治二十六年三月取引所法ニ掲ケアリ此取引所ノ取引ニハ商品ノ取引ト株式ノ取引トノ二アリ取引ノ種類ニ付テ云ヘハ直取引ト延取引及ヒ定期取引トニ分カル此第二百六十三條ノ第三號ハ總テ此等ノ取引ヲ包含セルモノナリ

### 第四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲(第二六三條第四號)

手形ノ何タルヤハ手形法ノ説明ニ讓リ手形又ハ其他ノ裏書ヲ以テ他人ニ移轉スルコトヲ得ル證券ノ發行裏書支拂其他ノ取引ノ如キハ之ヲ商行爲ト看做スモノナリ

## 第二節 主觀的商行爲

第一節ニ於テ説述シタルモノハ凡テ其性質上商行爲タルモノナリ客觀的商行爲ハ其商行爲ヲ爲ス人ノ如何ヲ問ハスシテ常ニ商行爲ナリト雖モ本節ニ於テ論セントスルモノハ營業トシテ爲シタル場合ニ於テ始メテ商行爲ト爲ルモノナ

主觀的商行爲ニ付テハ我商法ハ第二百六十四條ヲ以テ之ニ關スル規定ヲ設ケ  
タリ左ニ順次之ヲ説明セン

(第一) 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有償取得若クハ賃借又  
ハ其取得若クハ賃借シタルモノ、賃貸ヲ目的トスル行爲  
今之ヲ分拆スレハ

- (一) 其行爲ノ目的ハ動産若クハ不動産ナラサルヘカラス  
舊商法ニ依レハ不動産ニ關スル取引ハ之ヲ商行爲ト看做サ、リント雖  
モ苟モ營利ノ目的ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ賃貸シ若クハ其他ノ疏通行爲  
ヲ爲シタルトキハ之ヲ商行爲ト看做スヘカラサル理由ナキヲ以テ新法  
ニ於テハ不動産モ亦商行爲ノ目的タルコトヲ得ルコト、セリ
  - (二) 有償取得若クハ賃借并ニ既ニ取得若クハ賃借シタルモノ、賃貸ヲ目的  
トスル行爲
- 有償取得ナル語ハ既ニ第一節ニ於テ説明シタルカ如ク報酬ヲ出シテ所

# 注意

明治三十二年七月九日印刷  
明治三十二年七月十日發行

○校外生ノ月謝拂込其他ノ通信ニハ必ス**第一部、第二部、第三部**又ハ**全部**校外生タルコトヲ明記スヘシ

○月謝金ハ必ス**前納**スルコトヲ要ス

數月分前納スルモ妨ナシ

○爲替ハ必ス**飯田町**支局宛ニテ振出スヘシ

○講義録ノ落丁補足ヲ請求スル者ハ必ス其講義録ヲ**返戻**スヘシ

○編輯上ニ關スル書信ハ**編輯部**宛ニテ差出スヘシ

發行所 司法省 **和佛法律學校**

所在 (東京市麴町區富士見町六丁目十六番地)  
電話 (本局千二百七十四番)

編輯者 小田 幹治郎  
東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子 鐵五郎  
東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活版所

明治三十二年十二月九日內務省許可